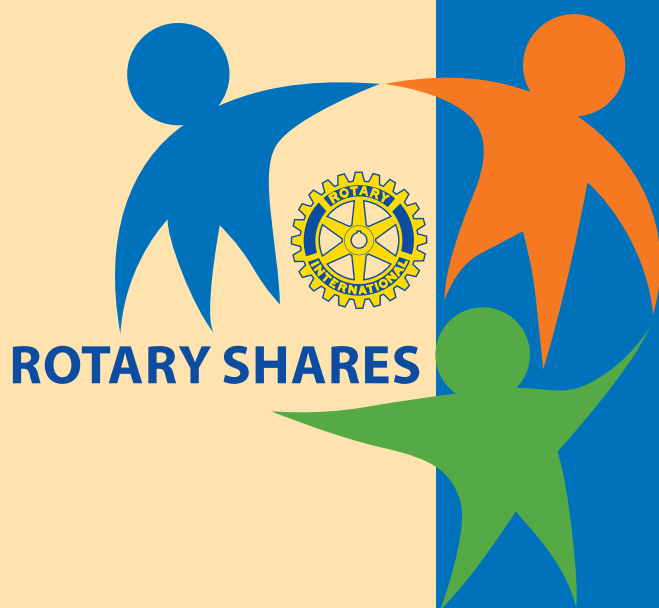




国際ロータリー第2840地区  
2007～2008年度

# 地区協議会報告書



2007～2008年度  
国際ロータリー・テーマ

ロータリーは  
分かちあいの心

2007年5月12日(土)

主会場 利根沼田文化会館  
ホスト 沼田中央ロータリークラブ



## 地区協ガバナー挨拶

国際ロータリー第2840地区

ガバナー 津久井 義 孝

ようこそ 地区協議会にご出席頂き、誠に有難う御座いました。満を持しての横山年度スタートの準備であります。先日、沼田市で開催された、「会長・幹事会(P E T S)」と並んで、ガバナー就任前の重要な大イベントであります。

第2840地区内47RCが2007-08年度の活動方針を樹立する上で、ロータリー知識に最後の磨きをかける、重要な研修会であります。

2007-08年度のガバナー達が、出席義務を負わされている、USAサンディエゴ市で実施された、「国際協議会」には全世界から530地区のガバナーエレクトが集合し、RI会長エレクト ウィルフリッドJ. ウィルキンソン氏の新たな方針「Rotary Shares」=「ロータリーは分かちあいの心」の下に、ロータリーはかく活動すべきであるとの、理念の教育を受けたのであります。

また、ロータリーが全世界を結ぶ、巨大なネットワークによる、親睦の輪の拡がりや、結束を再認識し、122万会員は国境を越え、人種を越えて、全て対等の友人であることも、改めて理解したと思うのであります。

横山ガバナーエレクトは、国際協議会で学んだ数々の教えに加えて、横山独自色を織り込んだ、本地区ロータリーの大飛躍の方針を、47RCリーダーの方々に伝えて、絶大な協力を要請することでしょう。

地区内47RCの会長、幹事、委員長は、一年間のクラブの動向を決めることのできる、大任を背負った方々ばかりであります。云うならば、RCの存在地域を代表する会員の方々の、そのまた代表でもあります。

担当される一年間の活動方針を、今日の協議会で学び、所属RCが一層楽しく、奉仕に献身する会員も増加して、地域から尊敬されるロータリーになりますことをご期待申し上げ、ご挨拶といたします。



## 地区協議会にあたって

国際ロータリー第2840地区

ガバナー・エレクト 横山 公一

2007-08年R1 2840地区協議会開催にあたり、一言ご挨拶と御礼を申し上げます。

ご参集の皆様は本年2840地区の各クラブのリーダーの方々であります。

リーダーの皆様が一同に会しまして、本年のR1の目標を学習すると共に、自クラブの目標とどのようにして摺り合わせていけるのかを学ぶ、大変良い機会であります。多いに討論を行い、自分のクラブに活かしていただければ幸いと考えております。その結果、クラブが今よりも元気に、そして活性化していただければありがたいと思います。

そして、高木研修リーダーを初めと致します研修委員の皆様には、ロータリーに於けるところの各セクションを担当していただくと同時に、2840地区の流れをお話いただき、2840地区の歴史をご参加の皆様の頭の中へ描いて頂ければと考えております。

ウィルフリッドJ・ウィルキンソン2007-08年度R1会長は、ロータリアンというのは実に豊かな、多様性に満ちた人々の集まりです。さまざまな国でさまざまな言語を話す私たちは、信仰も政治的見解も、ひいては哲学的な信念をも異にしています。120万人の会員の間に通ずる一本の強力な糸が存在するとすれば、それは「分かち合い」という名の精神で出来た糸です。ロータリアンは、広大な範囲の人道的・社会的問題に挑むプロジェクトを効果的に遂行する為に、自らの時間や才能、専門知識、資金を分かち合っています。

また、思いやりと熱意を分かち合い、恵まれない人々を助け、より良い世界を築こうという決意を分かち合っています。さらには、ロータリーを世界第一級の奉仕団体へと発展させた比類なき奉仕への情熱を分かち合っているのです。この基本的とも言える寛大な精神を2007-08年度のテーマに反映したく、私は「ロータリーは分かちあいの心」というテーマを選びました。このテーマが、次年度、すべてのロータリアンにとって誇りの原点となり、また私達の活動の原動力となってくれることを願います。

分かちあいと言うと、大勢による偉業を推進することを連想されるかもしれませんが、それは同時に一個人による行為であり、個人的な選択でもあります。私たちの一人一人がどれだけの時間とエネルギー



## 開会の挨拶

国際ロータリー第2840地区

地区協議会実行委員長 浅川 忠 良

本日ここに、津久井ガバナーを始めガバナーエレクト、パストガバナー、地区役員そして各ロータリークラブの次年度役員等の皆様方をお迎えして、国際ロータリークラブ第2840地区の地区協議会を開催できますことは、私共ホストクラブの沼田中央ロータリークラブにとりまして、誠に光栄に存じております。

昨年、開催地にご指名されて以来実行委員会を設立し、ガバナーエレクト事務所のご指導を賜りながら会員一同準備を進めて本日を迎えることになりました。

しかしながら、群馬の北に位置することから交通の便も必ずしも良好とは言えず、会場もご覧いただいたように構造がこの種の会議開催には不向きなため、皆様方に大変ご不自由をおかけいたしますが、お許し賜りますようお願い申し上げます。

各種の問題を抱えた現在、本日の協議会が今後の会運営と会員皆様にとりまして実り多いものになりますとともに、第2840地区の各クラブの益々のご発展を心からご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。



## 歓迎の言葉

国際ロータリー第2840地区

沼田中央ロータリークラブ会長 生 方 彰

本日は、若葉の薫るこの季節に森林文化都市 沼田によろこお越し下さいました。ご多忙のところ地区協議会に県北の地 沼田までお越しいただき誠に有難う御座います。

また、RI第2680地区パストガバナー田中毅様には遠路はるばるお越しいただきましたことを感謝申し上げますと共に、心より歓迎する次第で御座います。本日のご講演ではご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。また津久井義孝ガバナー、横山公一ガバナーエレクト、地区幹事をはじめ地区役員の方々、そして各クラブ次年度会長・幹事・役員の皆様をお迎えし、地区協議会が盛大に開催できますことをホストクラブを代表いたしまして重ねて感謝申し上げます。

本日はサンディエゴ国際協議会より帰国の横山ガバナーエレクトのRI次年度方針「ロータリーは分かちあいの心」を十分理解され、新年度に向けて実り多い研修会になりますよう心からご祈念申し上げます。まして歓迎の挨拶とさせていただきます。



## ご挨拶

R I 理事 重田 政 信

風薫る良い季節になりました。森林の街と言われる沼田市の新緑がひときわ鮮やかであり、この季節はこれまで裸だった木々の枝が一斉に緑したたる若葉に変わる正に感動的な時期であります。

私は毎年この時期になりますと、ロータリーでも同じような感動を覚えます。それは、この地区協議会において、横山公一ガバナー・エレクトを始め、地区の皆様方の新年度に対する熱い思いが、萌え出する若葉のように力強く感じられ、地区はあたかも新緑に包まれたアルカディアの森のように、新鮮な息吹に満ち溢れるからであります。

この4月に、ロータリー第2世紀の最初の規定審議会が開かれました。清パストガバナーから規定審議会の御報告があると思いますが、今やロータリーはその変革の時期を迎え、「ロータリーらしい真の魅力」が最も求められている時であります。このロータリーの転換期にあつて横山ガバナー・エレクトの皆様方に対する期待は例年になく大きいと思われます。

では、皆様はこの貴重な週末の1日を何のためにここにお集まりでしょうか？それはひとくちに言えば、皆様方の掛け替えのないクラブを一層魅力的なものにして、皆様のクラブの活性化、ひいては地区の活性化を図って頂くためであると思ひます。

では、ロータリーの魅力とは何でありましようか？ロータリーの持つ魅力には、①対外的な魅力、即ち非ロータリアンに対する魅力と、②対内的な魅力、即ち既存のロータリアンに対する魅力の2つがあります。この2つを明確に区別しないと、皆様方クラブ指導者が抱かれるクラブの魅力に対する概念がはっきりしなくなり、クラブ運営の上で「クラブの魅力」に対処する上で明確な指針を打ち出せなくなります。

①の対外的魅力は、主として地域社会での社会奉仕の実績によるクラブの名声であり、これにはPRによる公共イメージの向上や、ロータリアンの個人的な魅力が関与しますが、これが新会員獲得に大きく関係します。また、この社会奉仕の概念の導入により、ロータリーは100年も存続し得たと言えましよう。

一方②の対内的魅力は、ロータリー独自の魅力であり、職業奉仕の精神による輝かしいロータリアンのあり方を知ることあります。「四つのテスト」に具現されたように、この職業奉仕の精神はロータリアンの企業の存続を保証し、そのロータリーの魅力が退会防止に繋がります。

さて、本日の地区協議会で横山ガバナー・エレクトが次期クラブ指導者の皆様方に最も強く求められるものはクラブ活性化に対する皆様のリーダーシップでありましょう。それでは、ロータリーが皆様に求めるロータリーのリーダーシップとはいかなるものでありましょうか？本日お集まりのロータリアンは総て世のリーダーであります。従いまして皆様方は既に立派なリーダーシップをお持ちであります。しかしロータリーのリーダーシップは、日頃皆様がお仕事の上で行使される縦のリーダーシップとひと味違い、それは横のリーダーシップと言うべきものであります。

ロータリアンは命令で動くものではありません。ロータリアンは理解と納得と、更に友情の上で動くものであります。従いまして、皆様方のリーダーシップは、事前に十分な情報を提供して理解を求めることに始まり、友情が自ずとわき上がるような友好的な雰囲気の内に行進する必要があります。

ただ、ここで心すべきことは、ロータリアンは、それぞれリーダーであるが故に、武士は相身互いで、それだけにほかのリーダーの立場、リーダーのつらさ、リーダーの淋しさというものを良く理解してくれ、次年度クラブのリーダーとなられる皆様方のいうことに耳を傾け、友情を持って協力をする筈であります。しかし、そうした義務感としての、あるいは儀礼的な協力と、ロータリーの友情をもって心から献身的に協力してくれるのでは大きな相異があります。一旦理解してくれると、ロータリアンの実行力は凄いということを実感されるであります。

また、ロータリアンはそれぞれ自分の考えを持ち、協力はしてくれながらも、そこに常に批判を秘めていることを忘れてはいけません。即ち、皆様方のリーダーシップに絶対的に必要な付帯条件は、十分な理解の上に立った、堅いチームワークであります。正に「ロータリーは分かち合いの心」であります。これはまた、クラブのリーダーばかりでなく、特にガバナー事務所の皆様方にも求められるものでありましょう。

ここで、よく引用される「成功者と失敗者」という対句をご紹介します。

- ・成功者には必ず計画がある。失敗者は必ず言い訳をする。
- ・成功者は必ず答えを出す。失敗者は必ず問題を起こす。
- ・成功者はあらゆる問題に答えを見いだす。失敗者はあらゆる答えに問題を見いだす。
- ・成功者は言う「あなたのために私にその仕事をさせてください」。失敗者は言う「それは私の仕事ではない」
- ・成功者は言う「難しいかも知れないが可能だ」。失敗者は言う「可能かも知れないが難しい」。
- ・成功者は耳を傾ける。失敗者は自分が話す順番が来るまでただ待っている。
- ・成功者は言う「私は成果を上げた。でも、もっと成果を上げられる筈だ」。失敗者は言う「多くの人と比べれば、まあまあだ」。

次期クラブ指導者の皆様！横山ガバナー・エレクトの期待に応え、当事者意識を持って皆様のクラブを活性化しましょう。何よりも皆様方のクラブを楽しいものに致しましょう。皆様が誇りを持てる奉仕活動を実行し、皆様の年度を実りあるものにしましょう。そうして来年の6月に、大きな満足感を持って、皆様方の年度を振り返ることの出来るよう、ご健闘を祈ります。



## 地区協議会の目的

地区研修リーダー 高木 貞一郎

お早う御座います 本日は早朝より沼田にご参集を頂き主管者の一員としてお礼申し上げます。

この地区協議会は、各クラブの選挙で選ばれた次年度役員、会長エレクトから指名された次年度クラブ委員長、即ち次期クラブ指導者、来る7月1日より自分の役割と責務を認識して、その任務を遂行する為にする研修です。

津久井ガバナー支援の下に、横山ガバナーエレクトが本協議会の責任者で、研修リーダーが研修委員とともに計画実施し、ガバナー補佐、地区委員長が協力して開催いたしました。

構成内容は、クラブの広報、クラブの管理、奉仕プロジェクト、ロータリー財団、米山奨学会、新会員オリエンテーションに加えてP E T Sに続いてのクラブ会長情報取得のプログラムとなっております。今日は7時間の長丁場となりますが、研修後懇親会もありますので一日お付き合いの程をお願いいたします。



## 決議及び諸事お知らせ

### 1. 諸事お知らせ・・・地区幹事 保坂充勇(沼田RC)

主に組織(地区会員必携P8)の説明を行った。また会員必携には載っていないが、インターアクト委員に新たに信澤 卓(たかし)君(高崎東RC)が追加決定されたことを発表した。

### 2. 決議 2007-2008年度予算案について・・・次年度会計長 林 良昭(沼田RC)

次年度会計長より次年度予算案(地区会員必携P16～18)が説明され、その後原案通り可決された。  
(地区への分担金1人当たり22,950円)





## 規定審議会の報告

(時間の都合上、下記の表の中から抜粋して、説明なさいました。)

規定審議会代表議員 **清 章 司**

### 2007年立法案採択結果一覧表

(採択されたもののみ記載)

\* 日本提案      A : Adopted 採択      AA : Adoptedasamended 修正採択

番号	立法案表題	結果	賛成	反対
I. クラブ例会				
* 07-11 日本提案	一般に認められている祝日にクラブ例会を取り止める権限をクラブ理事会に与える件	A		
II. 出席				
A. 出席規定				
07-14	ロータリー年度の各半期ごとに、例会の50パーセントに出席するよう会員に義務づける件	A	308	151
07-16	出席記録の算出に関する規定を改正する件	A	253	208
07-17	出席記録の算出に関する規定を改正する件	A	250	214
III. クラブ管理				
A. クラブ運営				
07-29 RI提案	標準ロータリー・クラブ定款に四大奉仕部門を含める件	AA	423	43
07-30	クラブの名称及び所在地を改正する際にガバナーに相談する件	A	273	217
07-29 RI提案	会員が青少年保護に関する法に違反したことに對する申し立ての調査を怠ったクラブの加盟を一時停止または終結する権限をRI理事会に与える件	AA	421	66
07-39	ロータリー財団の学友をゲストとして例会に招くようクラブに奨励するよう、RI理事会に要請する件	A	406	72
07-41	訪問ロータリアンに関する規定を改正する件	A	312	174
07-42	最近のローターアクターの入会金の支払いを免除する件	A	376	111
B. クラブ役員				
07-44	会長ノミネーと会長エレクトの任期を明確にする件	A	441	29
07-46	会長エレクト研修セミナーおよび地区協議会に出席した後継者が選出されるまで、会長が引き続き役職に留まることを規定する件	AA	343	146
IV. 会 員				
07-57	ロータリー財団学友が正会員となることを認める件	A	407	84
07-65	会員身分の終結に関する規定を改正する件	A	330	157
07-329	会員資格条件の規定を改正する件	AA	440	53
07-330	職業分類が既に充填されている場合でも、ロータリー財団学友を正会員として選ぶことをクラブに認める件	A	414	81
07-331	会員身分の終結に関する職業分類の規定を改正する件	AA	271	219
07-334	欠席を理由として会員身分を終結することに関する規定を改正する件	A	301	185
07-335	会員身分の終結手続の間、クラブが会員身分を一時保留とすることを認める件	A	290	199

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

V.プログラム				
A.一 般				
07-68 RI提案	ポリオの撲滅を国際ロータリーの最優先の目標であることを承認し、確認する件	A	463	36
07-70	安全な飲み水を重点事項歳、ブルー・プラネット・ラン財団（Blue Planet Run Foundation）のブルー・プラネット・ラン（Blue Planet Run）および水プロジェクト活動を支持するよう、RI理事会に要請する件	A	290	195
B.常設プログラム				
07-96	「新世代交代」という呼称を「若者交換（Young Adults Exchange）」に変えることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-98	模擬国連総会（MUNA）を公式のRIプログラムとして採択することを検討するようRI理事会に要請する件	A		
C.RIテーマと標語				
07-107	RI定款の中でロータリーの徽章と超我の奉仕について言及するという立法案を次回の規定審議会に提案することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
* 07-109 日本提案	RIの第二標語を改正することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A	268	223
07-113	新しいロータリーの楽曲を作曲するために世界的なコンテストを行なうことを検討するよう、RI理事会に要請する	A	294	202

VI.ロータリー財団				
07-116 RI提案	ロータリー財団の未来の夢計画の使命、標語、優先事項を承認する件	A	437	38
07-118	地区補助金のために、地区が地区財団活動資金（DDF）の30%までを使用することを認めることを検討するよう、管理委員会に要請する件	A	253	223
07-120	マッチング・グラントの最低額を米貨2,500ドルまで引き下げることが検討するよう、管理委員会に要請する件	A		
07-121	マッチング・グラントを使用した建物の建設を許可することを検討するよう、管理委員会に要請する件	A		
07-124	個々の補助金やプロジェクトの監査や調査に関連する経費や手続きを見直すことを検討するよう、管理委員会に要請する件	A		
07-130	RIウェブサイトの「研究グループ交換」の部分に研究グループ交換組合せ地区要請のセクションを設置することを検討するよう、管理委員会に要請する件	A		
07-132	奨学金の申請手続きの期間を短縮することを検討するよう、管理委員会に要請する件	A		
07-134	ロータリーのウェブサイトに掲載されるプロジェクト情報の量を増やすよう、管理委員会に要請する件	A		
07-137	年次報告書に寄付増進に関する経費の内訳を記載するよう、管理委員会に要請する件	A		

VII.ロータリー要領				
07-143	「ロータリーの要領」の第1項のスペイン語訳を変更することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		

VIII.地 区				
C.財 務				
07-158	地区の財務報告の要件を改正する件	AA		
07-160	地区資金のための1人当りの賦課金を会長エレクト研修セミナーで承認できるようにする件	A		

IX.RI管理				
A.組織統括（コーポレートガバナンス）				
07-164 RI提案	RI委員会の任命プロセスを改正する件	A		

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

07-165	RI財務局長および理事会のメンバーが、RI財務委員会の委員を務めることを規定する件	A		
07-166	規定審議会の開催年度中、定款・細則委員会の一番最近の元委員を、同委員会の4人目の委員として加える件	A		
07-167 RI提案	監査委員会を設置し、監査運営審査委員の職務権限を改正する件	A		
07-169	貧困緩和の研究に取り組む委員会の設置を検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-175	地区が1つのゾーンのみ属するよう、ゾーンの再編成を検討するよう、RI理事会の要請する件	A		
07-177	第5ゾーンを3つのセクションに再編成することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-180	ロータリー・クラブへの連絡を行うにあたり、より効率的で費用のかからない方法を見つけることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-340	RI理事会の決定の発行を義務づける件	AA		
07-342	RI理事会決定に対する訴訟手続を改正する件	A	334	173
07-343	ロータリアン間の意見の対立の調停について規定を設ける件	A		
07-344	長期計画にロータリアン見込者の人口統計を含めることを規定する件	A		
B.RI運営				
07-183	ロータリアンがRIウェブサイトを通じて会員情報を制限付きで見ることができるようになることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-184	RIウェブサイトの資料の説明を改善することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-185	クラブと地区のウェブサイトに、ロータリー・ワールドワイド・ウェブのリンクを義務づける件	AA		
07-186	ロータリーのウェブサイトに、Eクラブへの目立つリンクを設けることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-187	クラブが使用するために、インターネットのソフトウェアとプラットフォームを提供することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-203	RI定款、RI細則、ロータリー章典上で、意味が不明解な語彙を明確にすることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-204	出版物（の番号）に10進方を使うことを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-205	ロータリーが認めている各言語で明確に示されるロータリーのプログラムや活動を設けることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-210	会長代理は指定された地域の言語に堪能であることを義務づけることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-213	ヒンズー語をRI公式言語に含めることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-219	ロシア語をRI公式言語に含めることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
07-348	RI旅行方針を改正することを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		

X.RI会合				
07-222	年次国際大会を6月14日/16日までに終了することを推奨するよう検討することをRI理事会に要請する件	A		
07-223	国際大会プログラムに対する変更を採択することをRI理事会に認める件	A		
07-224	スポンサー地区内のロータリアンには、国際大会登録料を引き下げよう、RI理事会に要請する	A		
07-225 RI提案	ゾーン研究会をロータリー研究会に改称し、RI細則の言及箇所を改正する件	A		

X I .RI役員およびその選挙				
A.RI会長				
07-228 RI提案	RI会長ノミニーの選出の規定を改正する件	A		
07-230	RI会長ノミニーの選出の規定を改正する件	AA		
07-231	RI会長指名委員会の委員の数を増やす件	A	298	203
07-350	すべてのRI会長ノミニー候補者に、面会の機会を与えることを規定する件	AA	382	110

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

B.理 事				
07-235	理事指名委員会委員の資格条件を改正する件	AA		
C.ガバナー				
07-239 RI提案	ガバナー・のミニーの資格条件を改正する件	A		
07-240	地区がガバナー・ノミニーを選出しなければならない期日を変更する件	A		
07-241	ガバナー・ノミニーの選出に関する規定を改正する件	A		
07-250 RI提案	ガバナーの特別選挙に関する規定を改正する件	AA		
07-251	郵便投票書式を改正する件	A		
07-252 RI提案	郵便投票書式を改正する件	A		
07-256	ロータリアンのグループに関して定期的に尋ねることを義務づけるために、ガバナーの任務を改正する件	A		
D.その他				
07-260	役員指名の規定を改正する件	A		
07-261 RI提案	RI副会長を2年目の理事から選出することを義務づける件	A		
07-268	選挙の不服申し立て手続きの改正を検討するよう、RI理事会に要請する件	A		

X II.RI財務および人頭分担金				
07-283 RI提案	人頭分担金を増額する件	A	382	107
07-283 RI提案	比例人頭分担金を、1ヶ月につきRI人頭分担金の12分の1の割合で支払うことを規定する件	A		
07-290 RI提案	一般余剰金のレベルを修正する件	AA		
07-291 RI提案	RIへの財政的義務あるいは地区資金の支払いを怠ったクラブの加盟を停止する権限をRI理事会に与える件	A		
07-292 RI提案	用途と不指定のRIの純資産に対するRIBIの拠出金を増額する件	A		
07-293 RI提案	ゾーン研究会における見通し5ヶ年計画に関する説明会発表を明確にする件	A		
07-295	経費削減チームの任命を検討することをRI理事会に要請する件	A		

X III.立法手続				
07-301 RI提案	規定審議会代表議員の選出手続きを改正する件	A		
07-304	規定審議会に立法案を提出する予定期日表を修正する件	A		
07-308 RI提案	立法案を地区あたり最多5件までとするよう奨励する件	A		
07-310 RI提案	欠点のある立法案と欠陥のある立法案の区別を廃止し、立法案に関する他の規定を明確にする件	A		
07-311	管理運営上の行動を要求あるいは要請する決議を含め、欠陥の有る立法案の定義を改正する件	A		
* 07-316 日本提案	規定審議会で採択された制定案が忠実に反映されるよう義務づけることを検討するよう、RI理事会に要請する件	A		
* 07-357 日本提案	採択された決議の審議の結果を発表するようRI理事会に義務づける件	A		

X IV.特殊な立法案				
07-317 RI提案	規定審議会の会議運営手続規則を次の審議会に変更になるまで有効とする件	A		
07-318	地区大会における投票手続きを明確にする件	A		



ガバナーエレクト方針発表

## ROTARY SHARES (ロータリーは分かちあいの心)

国際ロータリー第2840地区

ガバナーエレクト 横山 公一

ウィルフリッドJ. ウィルキンソン2007-08年度RI会長は「ロータリーというのは本当にすごいものです。ロータリーはまさしくマジックそのものです。ロータリーというのは、平凡な人間を非凡にするというマジックをもっている組織です。」といった認識を披露すると共に、

①ロータリーというのは、人類が他の人間に対して、心優しさ、また愛の心、を投げかけるチャンスを与えてくれているのです。

②私達はクラブ奉仕を通じてロータリー精神を分かちあっています。

③私達は職業奉仕を通じて愛の心を分かちあっています。

④社会奉仕はロータリーの心です。私達はまず自分の家庭に責任を持ちます。そこから地域に尽力します。

⑤そして私達は国際奉仕で愛を分かちあっています。国際奉仕はロータリーの目のようなものです。ニーズのあるところで支援をして、自分一人で出来ないことは他のロータリアンと一緒に支援をします。

⑥私達は青少年に奉仕をすることで、愛を分かちあっています。青少年は私達の未来です。

と述べ、「ビル・ボイド会長が強調された、『水保全』、『保健・飢餓救済』、『識字率向上』、『ロータリー家族』を引き続き強調していきたいと思います。」と継続性を示しました。

そして、「2007-08年度のテーマはROTARY SHARES (ロータリーは分かちあいの心) です。」と発表されました。

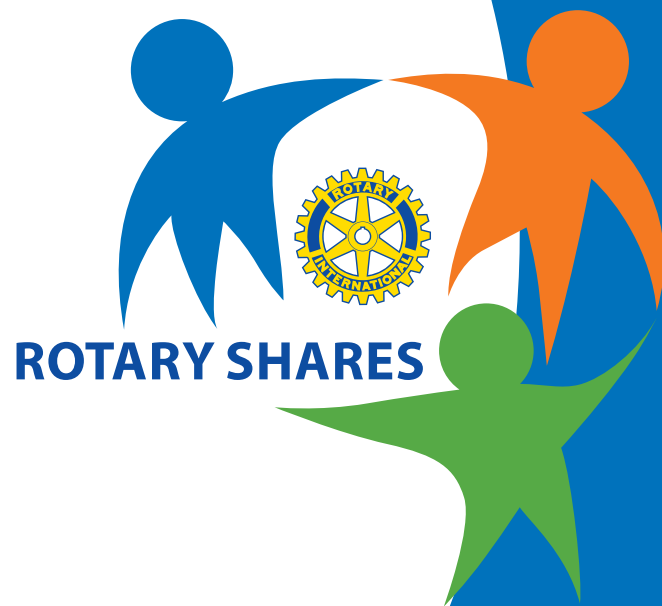
「ロータリーは思いやりの心があるから、ロータリーは分かちあうのです。ロータリアンはニーズを理解しているからこそ、ロータリーを分かちあうのです。ロータリアンが『超我の奉仕』を実践しているからこそ、ロータリーを分かちあうのです。私達は自分の時間、才能、金銭の面でもみんなと分かちあっています。そして私達は、愛を分かちあっています。」

と、ウィルリッドJ. ウィルキンソン2007-08年度RI会長はテーマ発表と共に、自分の思いを披歴されました。まさに、ロータリーの原点に触れる言葉ではないでしょうか。良質な職業人の代表であるロータリアンが、自己の内なる矛盾を克服して他人の為に尽くそうという、人生哲学そのものではないでしょうか。

我々ロータリアンは「ROTARY SHARES」の下に、今年一年結集しようではありませんか。

そしてロータリーの基本であるクラブを元気にしようではありませんか。地区はクラブの強化を最優先課題とし、情報・人的資源をクラブに提供していきます。会員一人純増を達成し、会長賞をいただくではありませんか。

地区内ロータリアン各位のご理解とご協力を、心からお願い申し上げます。



# 基調講演・分科会





# 国際ロータリー第2840地区

2007-2008年度

## 地区協議会





基調講演

講師プロフィール



国際ロータリー第 2680 地区パストガバナー

田 中 毅 TANAKA TAKESHI 眼科医  
1933 年 5 月 10 日生  
尼崎西ロータリークラブ所属

RI 2680 地区 1996-97 年度パスト・ガバナー、  
元ロータリー・ジャパン・ウェブ委員長、  
元 大阪国際大会インターネット委員長、  
ロータリー囲碁同好会 名誉会長、  
ロータリー歴史と伝統の会 理事、  
2001 年・2004 年規定審議会 代表議員、  
元 RRVF・テクノロジー・失明回避・友情促進と親睦・  
識字率向上・ロータリー家族 各ゾーンコーディネーター、  
2007 年 国際ロータリー超我の奉仕賞 受賞  
HP『ロータリーの源流』主宰者  
<http://www1.odn.ne.jp/~caz52570>  
趣味：コンピューター、鉄道模型、園芸、阪神タイガース

職業奉仕 理論と実践の徹底的分析 (2007年2840地区版)

2680地区パストガバナー 田 中 毅

職業奉仕は、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した考え方を、そっくりそのままロータリーが受け入れた、他の奉仕団体とは異なった独自の奉仕理念です。従ってどんなに優れた考え方であったとしても、シェルドンの考え方と異なる考え方を、職業奉仕理念と呼ぶわけにはいきません。すなわち、職業奉仕の理念を理解しようと思ったら、シェルドンが書いたり語ったりした一次資料に接することが必要です。しかし残念なことには日本ではシェルドンの文献はほとんど紹介されておらず、後世のロータリアンが書いた二次、三次の資料や伝聞によって職業奉仕が語られてきたのが現実です。

東洋思想の影響からか、日本のロータリアンの多くは職業奉仕に大きな関心を抱き、多くのロータリーの指導者たちが職業奉仕を説いていますが、シェルドンの職業奉仕理念とはかけ離れた解説もかなり多いようです。仏教や儒教のような東洋思想を引き合いにして職業奉仕を語る人も多いようですが、それはその人の考え方であって、シェルドンの職業奉仕理念とは程遠いものであることを強調しておきたいと思います。

ヨーロッパではキリスト教の天職論と職業奉仕を結びつけて考える人が多いようです。ポールハリスが幼少の頃をニューイングランドで過ごしたことから、ピューリタニズムの天職論がロータリーの職業奉仕の根底にあると説く人もいますが、ポール自身が敬虔なキリスト教徒ではなかったことは、彼が書いた伝記からも明らかです。ロータリーの職業奉仕理念の構築はポールではなく、アーサー・シェルドンの功績であることは誰の目にも明らかです。

マックス・ウェーバーの天職論がロータリーの職業奉仕の根底にあると説く人もいますが、これも明らかな間違いです。マックス・ウェーバーが彼の代表的著作である「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を発表したのは1905年のことであり、シェルドンはそれよりはるか以前に職業奉仕の

理念を構築して、それを実社会で応用するためのビジネス・スクールを経営していたからです。

職業奉仕を倫理高揚運動と説く人がいますが、これも大きな間違いで、職業奉仕とは科学的かつ合理的な企業経営方法のことであり、シェルドンの職業奉仕理念に則った企業経営をすれば、継続的に最高の利益が得られることを約束しているのです。そしてそれを示すモットーがHe profits most who serves bestなのです。すなわち職業奉仕実践の受益者はロータリアンであることを忘れてはなりません。

職業奉仕は実利的なものであり、精神的な運動でも倫理的な運動でもありません。ただし、職業奉仕の実践は顧客の満足度を最優先した事業経営の方法ですから、当然のこととして高い職業倫理という結果が現れます。しかしそれは職業奉仕を実践した結果に過ぎず、職業倫理高揚を目的とした活動ではありません。

プロテスタントの天職論がいかに優れた理論であろうとも、マリア・テレサのボランティア精神がいかに尊い行為であろうとも、シェルドンの職業奉仕理念、すなわちロータリーの職業奉仕理念とは全く異質のものであることを、お断りしておきたいと思えます。

さて、私の調査によると、シェルドンは1910年、1911年、1913年、1921年の都合4回の国際大会とThe Rotarianに対する数回の投稿で職業奉仕の理念を説いています。従って、これらの内容を理解すれば、シェルドンが説く職業奉仕の理念を完全に理解することができます。

1921年のエジンバラ大会で発表した「ロータリー哲学」と題するスピーチ原稿は、1991年に神崎正陳パストガバナーが東京のロータリー文庫で発見し、それを小堀憲助氏が翻訳しました。1910年、1911



年、1913年のスピーチ原稿は2000年と2002年に私がRI本部の資料室で見つけ出して、1921年のスピーチ原稿と共に私自身が翻訳して、私のウェブサイト「ロータリーの源流」で発表しました。すなわちこれ以前には、正式にシェルドンの論文が公開されていなかったために、日本のロータリアンがシェルドンの論文に直接触れて、シェルドンの職業奉仕理念を正しく理解できるようになったのは、ごく最近のことなのです。そこで今回は、これらのスピーチ原稿の内容を基本にして、シェルドンの職業奉仕理念すなわちHe profits most who serves bestというモットーの真意を解析してみようと思います。

1868年5月1日、ミシガン州バーノンで生まれたシェルドンは、ミシガン大学の経営学部で販売学を専攻しました。現在でこそ経営学はメジャーな学門ですが、当時としては極めて特殊な分野の学問を学んだパイオニア的存在だったと言えるでしょう。

卒業後、図書の訪問販売のセールスマンになりますが、素晴らしい営業成績をあげて、セールス・マネージャーに昇進し、1899年には出版社の経営を任されるようになりますが、1902年にシカゴにビジネス・スクールを設立して、サービスの理念を中核にした販売学を教える道を選びます。後日、ロータリーの職業奉仕理念の中核となった「He profits most who serves best」に基づくサービス学の概念を、科学として捉え、それを体系的に教えることが、シェルドン・ビジネス・スクールの方針だったのです。

シェルドンは1908年1月にシカゴ・クラブに入会し、直ちに拡大情報委員長に就任し、更に1910年に設立された全米ロータリークラブ連合会ではBusiness Methods Committee)の初代委員長に就任して、自らが提唱した職業奉仕理念を説き続けます。

シェルドン・ビジネス・スクールの広告の冒頭には、「人生のあらゆる面は、運ではなく、自然の法則によって定められている。成功しているセールスマンとて、例外ではない。」と記載されています。後に道徳律の起草委員として、第11条をドイツ語で書き上げたジョン・ナトソンは、「1906年、この学校の広告を偶然に見た私は、入学金10ドルと授業料月額5ドルを払って、684番目の学生として入学した。そして6ヶ月の間に40冊の教科書を受け取った。」と回想しています。すなわちシェルドンは、自らがロータリーに入会する以前から、ロータリーの職業奉仕理念を説く活動をしていたのです。

さて、シェルドンの職業奉仕理念をお話する前に、当時の社会情勢や時代背景をお話しておかなければなりません。

アメリカン・ドリームを夢見て西へ西へと向かった人たちが集まった交通の要衝として栄えた無法と腐敗の町がシカゴです。

資本主義のもっとも醜い面をさらけ出した無秩序な自由競争の下では、同業者はすべてライバルであり、法さえ犯さなければ金を儲けた者が成功者としてもはやされました。後ろめたい気持ちがあれば、僅かばかりのチャリティーをすれば周囲の人々は納得しました。だますより、だまされる方が悪いという風潮がまかり通り、誇大広告・虚偽広告は当たり前でした。

こんな状況の中でシェルドンは、必ず事業を発展させる経営方法として、職業奉仕を説いたのです。

皆が儲けることを第一義に考えてしのぎを削った時代です。そんな中で、もしも職業奉仕を倫理運動として進めたとしたら、誰も耳を貸そうとしなかったでしょう。だからシェルドンは、継続的に利益をあげる方法として職業奉仕を説いたのです。

シェルドンはどんな手段を講じようとも、富を得たものが成功者としてもはやされた19世紀の利己的な経営手法を批判すると共に、単に自分だけが儲けようという商売から脱して、他人に対してサービスすることが、事業を成功させる方法であることを力説しました。

事業の発展は事業主の力量如何にかかっており、それは末永く利益をもたらす顧客を確保する技術を持って、事業を営むことであり、販売学とはその具体的な方法を学ぶことです。

シェルドンは原因結果論から奉仕哲学を説いています。火という原因によって、熱という結果が生まれます。大きい火によって大きな熱が得られるように、大きいServiceを行えば、大きなprofitsが得られるのです。

利他の心を持って、他人の成功を願うことが、自らが成功する秘訣なのです。ロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、その職業を通じて社会に奉仕するためにあるのです。

社会生活において我々が得るものは、同僚からの愛や尊敬を受け、自らの良心や自尊心を保ち、金銭すなわち物質的な安定があつてこそ、人生の満足や幸福が得られます。（幸福の正三角形）Profitとは精神的なものではなく、物質的な富ないしは物質的な富によって得られる精神的な価値なのです。職業奉仕に徹すれば必ず継続的な事業の発展が得られるというシェルドンの考え方の中では、Profitとはあくまでも物質的な富であり、清貧という考え方は存在しません。

社会生活に於いて我々が与えるものは、良質なものを、必要とするだけの量を、正しい状態（人間性とか事業の管理状態）で提供してこそ、満足感のある奉仕ができます。（奉仕の正三角形）

シェルドンの文献の中にはどこを探してもGodという単語は見当たりません。奉仕理念の構築に当たって宗教色を排除して、科学として説明を加えていることが大きな特徴です。シェルドンの職業奉仕理念には職業は天職だという考え方はありません。従って、ルターやカルビニズム、プロテスタンティズムやマックス・ウーバーの理論からロータリーの職業奉仕を説くのは間違いです。天職論はヨーロッパから発祥した考え方ですから、その立場をとらないシェルドンの考え方に、ヨーロッパ人、特にイギリス人が反発するのも、このあたりに理由がありそうです。

以上のシェルドンの論文から、彼が提唱した職業奉仕の理念をまとめてみましょう。彼は、持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を、サービスと名づけました。販売する商品や提供するサービスの品質が高いことや価格が適正であることは、大切なことですが、店主や従業員の顧客への態度や気配り、商品や業務に対する責任、顧客が感じる満足感と公平感、こういったもの全てがサービスであり、サービスの良い店には必ず顧客がリピーターとなって訪れたり、別の

顧客を紹介してくれます。更に顧客の満足度の高い事業所は、結果として高い職業倫理を持った事業所だと言うことができます。顧客の満足度を高めるサービスこそが企業の永続的発展と成功を保証する唯一の方法なのです。

事業上得た利益は、決して自分一人で得た利益ではありません。従業員、取引先、下請け業者、顧客、同業者など、自分の事業と関係を持つすべての人々のおかげで得たことを感謝し、その利益を適正にシェアする心を持って事業を営めば、必ず最高の利益が得られることを自分の職場で実証し、その方法こそが正しいやり方であることを、地域全体の職業人に伝えていかなければなりません。まず、ロータリアンの企業が職業奉仕理念に基づいた正しい事業経営をし、それによって事業が継続的発展をすることを実証すれば、必ずや他の同業者たちもその経営方法を見習うはずで、それが結果として、業界全体の職業倫理高揚につながるはずで、これが、He profits most who serves best の真意であり、職業奉仕の結論です。

シェルドンの職業奉仕理念をまとめて見ましょう。自らが儲けるために職業に就いているという考えを捨てて、顧客の満足度を最優先しつつ、自らの職業を通じて他人に奉仕をするという考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心を捉えて、リピーターとして何度も事業所を訪れたり、新規の顧客を紹介してくれるはずで、その結果大きな利潤が得られるとともに、その事業所は継続的に発展していきます。そして、そのような事業所は結果として高い職業倫理を持っているはずで、職業奉仕は職業倫理を高揚することではなく、職業奉仕の実践が結果として高い職業倫理につながるのです。

職業奉仕理念が確定したことを受けて、この理念を具体化するために、職業人のためのロータリー倫理訓(道徳律)が制定され、1916年にA talking knowledge of Rotaryに収録されて全会員に配布されました。そしてそれから後のロータリー運動は、その道徳律をいかに自分の事業所や所属する業界に適用するかという運動に変わっていきました。そのためには、先ず、ロータリアン自身が同業組合に入って、すなわち医者は医師会に、飲食店は食品関係の業界団体に入って、その業界の指導的立場になって、その業界に道徳律を広める活動に発展します。1925年のRIの発表によると、ロータリアンが自ら制定に関与して、正しく実行されている、全世界の企業の道徳律は145に上ることが報告されています。

業界が採用した道徳律の中で有名なものが、ガイ・ガンディカーが作ったレストラン協会の道徳律です。若年労働者の深夜労働が当たり前だった時代に、現在の労働基準関係諸法や就業規則とまったく引けを取らないような規約を定め、更に職業倫理基準、接客態度、サービス、取引関係、同業者対策、行政との関係、こういったものを、こと細かく決めて、それを守っていったのです。

1920年から1930年にかけてが、ロータリーの職業奉仕が社会に大きな影響を及ぼした爛熟期といえます。当時勢力を伸ばしつつあったマフィアに対抗して、業界や行政の粛清に力を貸すと共に、他国法遵守、贈収賄禁止、適正広告などの法制化運動にも大きく関与します。こういった活動は多分に政治がらみとはいえ、職業奉仕を前面に押し立てて、堂々とマフィアと対峙したロータリーに世間の人々が喝采

を送ったことは否定できません。ロータリアンはロータリアンであることに誇りを持ち、一般の人たちもロータリアンになることを夢見たわけで、ロータリーは大きな発展をとげたのです。

1929年から始まった世界大恐慌の時期に、ロータリアンがなしとげた大きな業績の一つに、四つのテストの制定があります。1931年、包装済食品戸別訪問販売の職業分類でシカゴ・クラブの会員であったハーバート・テラーHerbert Taylorは、不況のあおりを受けて、莫大な借金を抱え倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社の経営を引き受けることになりました。もしも、会社の再建に失敗すれば、250人の従業員が仕事を失うことになります。

彼はこの状況から脱出して、会社を再建するためには、道徳的、倫理的な指標がどうしても必要だと考えました。従業員が正しい考え方を持って正しい行動をすれば、会社全体の信用が高まるに違いありません。社員全体が簡単に憶えられて、自分を取り巻く全ての人たちに対して、考えたり、言ったり、行動したりするときに応用できる、道徳的な指標が必要であることに気づいたのです。社長室の机の前で頭をかかえながら、思い浮かんだ24語の言葉を書き留めたのがこの四つのテストです。

この四つのテストは倒産の危機に瀕した会社を立ち直らせるための純然たる経営上の指針であることに留意しなければなりません。四つのテストは、学校や駅に張り出したりして日常生活に適用するものではありません。その使用を事業上の取引に限定すると共に、邦訳や解釈を厳密にする必要があります。

### Four-way test 四つのテスト

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然Four-way testsと複数形になるはずですが、これが単数形であるのは、事業を繁栄に導くためには、四通りの基準を一つずつクリアすればいいのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、そのすべてをクリアしなければならないことを意味します。ロータリーの綱領がObject of Rotaryと単数形であり、四つの項目が渾然一体となって、一つの綱領を形作っているのと同様です。

### Is it the truth? 真実かどうか

商取引において、商品の品質、納期、契約条件などに嘘偽りがないかどうかは、非常に大切な基準です。真実というのは、「80%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、無かったのかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「事実かどうか」「嘘偽りがないかどうか」という言葉を用いるべきでしょう。

### Is it fair to all concerned? みんなに公平か

fairとall concernedという言葉の翻訳に問題があります。fairは公平ではなく公正と訳すべきでしょう。公平とは平等分配を意味するので、例え贈賄で得たunfair不正なお金でも平等に分ければ、それでよいことになります。all concernedはallだけが訳されており、肝心のconcernedが省略されています。冒頭に述べたように四つのテストは「商取引」の基準として定めた文章ですから、このconcerned(関わりのある人、関係する人)は「取引先」のことを意味することは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

### Will it build goodwill and better friendship? 好意と友情を深めるか

goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店ののれんや取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。「信用を高め、取引先をふやすかどうか」と訳すべきです。

### Will it be beneficial to all concerned? みんなのためになるかどうか

Benefitは「儲け」そのものを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然なことであり、決して恥ずべきことではありません。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。「すべての取引先に利益をもたらすかどうか」と訳すべきでしょう。

ロータリーの二つ目の奉仕理念は、Service above self であり、弱者に涙して人道的な奉仕活動を実践する社会奉仕や世界社会奉仕の活動です。

このService above self の原型となった言葉が、1911年8月22日に開かれた第2回全米ロータリークラブ連合会の年次総会のエクスカージョンである、コロンビア川をさかのぼる船旅の中で、1910年に創立されたミネアポリス・ロータリークラブ会長のベンジャミン・フランクリン・コリンズが即興演説の中で語った言葉 Service-not self でした。

この言葉は、コリンズが新しい奉仕理念として提唱したのではなく、ミネアポリス・ロータリークラブの運営方針を、たまたま彼が発表したに過ぎません。私が2002年にRI本部で発見したコリンズのスピーチ原稿を要約すると、自らの利益を得るために、ロータリーに 参加するのは間違いであること。いろいろな機会を通じて会員同士が助け合い、会員同士の取引を拡大すること。会員同士の相互取引には限界があるのでその対象をロータリアン外に広げる必要があるということが書かれており、ロータリアンだけで商取引を独占するのではなく、他の人たちにも分け与える必要があるという、「He profits most who serves best」に極めて近いスローガンだと考えるべきでしょう。

なおこの言葉が、この大会においてモットーとして採択されたという人がいますが、それは間違いで、大会議事録にはその記録がありません。

Service, not self を「自己の存在を否定して他人に奉仕する」という高い次元の奉仕理念だと説く人がいますが、これは大きな間違いです。この間違いを犯した大きな原因は、元シカゴ・クラブ会員であったオーレン・アーノルドが書いた「ゴールデン・ストランド」であり、この本に書かれたService-not selfに関する誤った記述をあたかも真実の如く伝えてきた、一部のリーダーたちの責任も否定できません。この本にはコリンズの職業を弁護士と記載していますが、正しくは果物卸売商です。

何れにせよ、Service-not self を「自己犠牲の奉仕」や「無我の奉仕」と解釈するのは間違いであり、いままではロータリアンが独占していた取引を、ロータリアン以外の人にも分け与えることを

Service-not selfといういささかオーバーな表現で表したものに過ぎません。当時の人たちがロータリー運動に参加した理由は、ロータリアン同士の物質的相互扶助による事業の発展であり、宗教や倫理高揚を謳ったのでは、誰もこの運動に魅力を感じないことは容易に理解できるでしょう。そんな中で、今までロータリアンが独占していた取引を、ロータリアン以外の人にもシェアしようというのですから、当時の人にとってはまさにService-not selfの心境だったのかも知れません。

さて「He profits most who serves best」と「Service above self」の二つのロータリー・モットーの推移を調べると興味ある事実が判ります。

1910年 シェルドンによるHe profits most who serves his fellows best 発表

1911年 ミネアポリスクラブの方針 Service-not self 発表

シェルドンHe profits most who serves best をロータリー宣言の結語として採択

1915年 RI会長に就任したアレン・アルバートがミネアポリス・クラブの出身であったため、自らのクラブの方針であったService-not selfを使用

1916-18年 「He profits most who serves best」と「Service-not self」の双方が使われる

1920年 「He profits most who serves best」と「Service above self」の双方が使われる

1921年 Service-not self、Service above self、Service before selfを廃止して、He profits most who serves bestのみにする決議案が提案され否決。当時はいろいろなフレーズのモットーが共存していたと考えられる。これ以降は「He profits most who serves best」と「Service above self」の双方が使われる。

1950年 「He profits most who serves best」と「Service above self」の双方をロータリー・モットーとする決議案が提案され採択される

なお「Service above self」というモットーは1920年から登場しますが、誰によって、何時作られたかについては不明です。一部にはシェルドンの作だという人もいますが、シェルドンの論文の内容は「He profits most who serves best」に関する記述のみで、「Service above self」についてはまったく触れていませんので、シェルドンの作ったフレーズではないと思われます。

対社会的な奉仕が、ロータリー運動の中で市民権を得るようになった一方で、今度はその〔奉仕〕のあり方をめぐって再び熾烈な論争が起きました。ロータリアンの心に〔奉仕の心を形成〕することがロータリー運動の本質だとする理論派と、〔奉仕活動の実践〕こそロータリアンの使命だとする実践派との論争です。

ロータリー運動を〔奉仕の心の形成〕として捉えた理論派は、ロータリークラブの使命は、ロータリアンに〔奉仕の心〕を形成させることであり、ロータリアン個人個人が奉仕の心を持って、自分の職場や地域社会の人々の幸せを考えながら、職業人としての生活を歩むことであると考えました。すなわち、クラブ例会で会得した高いモラルに基づく〔奉仕の心〕で事業を行い、その考えを業界全体に広げていくことが、全ての人々に幸せをもたらし、それが地域社会の人々への奉仕につながることを確信し



ていたのです。もし、職業奉仕以外の分野で、奉仕に関する社会的ニーズがあれば、夫々の会員が個人の奉仕活動として実施するか、自分が属している職域や地域社会の団体活動として実施すればよいのであって、クラブはあくまでも、どのような社会的ニーズがあるのかを提唱するだけに止めるべきであり、社会奉仕活動の実践は、ロータリークラブが実施母体になるのではなく、そのニーズを世に訴え、それに対処する運動が盛り上がるような触媒として機能すべきである。どうしても、地域社会に何かしたいのならば、職業上得られた Profits から個人的に行ったらよい、という考え方でした。

これに対して、[奉仕活動の実践]に重きをおく実践派は、現実には身体障害者や貧困などの深刻な社会問題が山積し、これまでにロータリークラブが実施した社会奉仕活動が実効をあげていることを根拠に、理論派とことごとく対立しました。実践派から見れば、奉仕の機会を見出して、それを実践することこそロータリー運動の真髄であり、単に、奉仕の心を説き奉仕の提唱に止まる理論派の態度は、責任回避としか写らなかったのです。[奉仕の心の形成]と[奉仕の実践]の論争は、個人奉仕と団体奉仕、さらに金銭的奉仕の是非にまで発展して、綱領から社会奉仕の項目を外せという極論まで飛び出すほどの、激しい対立が続きました。

1922年、RI理事会はエリリア、トレド、クリーブランド各クラブより共同提案を受けて、決議 22-17 を採択して、身体障害児に対する対策を奨励しました。しかし、この決議を行った直後に開催された理事会では、身体障害児救済の事業に狂奔することを戒める理事会決定を行っています。理事会の態度は更に二転三転し、1923年のセントルイス大会において「決議 23-8 障害児並びにその救助活動に従事する国際的組織を支援せんとする障害児救済に関する方針採択の件」という、とんでもない決議を提案する姿勢を示しました。これは積極的に身体障害児対策を推奨するために、国際身体障害児協会の仕事をロータリーが代行し、その費用を援助するために、RIが年間1ドルの特別人頭分担金を徴収することを定めたものであり、もしも、これが決議されれば、理論派の反対はもちろん、クラブ自治権の問題までもが加わって、收拾がつかない状態になることは必至でした。

これに反対したシカゴ・クラブの会長ポール・ウェストバークたちは、「駱駝がやってくる」と称する一大反対キャンペーンによって、セントルイス大会の代議員たちを説得しました。その結果、決議 23-34の成立と引き替えに、同決議は撤回されることになって、この論争に終止符が打たれることになりました。決議委員長の指名を受けたウイル・メーニアは4名の委員と共に決議 23-34を書き上げ、この1,000語からなる決議は直ちに大会で皆に披露され、一言の訂正もなく採択されました。

決議 23-34は単なる社会奉仕に対する指針ではなく、ロータリーの綱領に基づくすべての活動に対する指針であると同時に、ロータリーの奉仕理念を現す唯一のドキュメントでもあり、「この哲学は奉仕 - 「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理に基づくものである。」とロータリーの奉仕理念を定義しています。

さらに、「奉仕するものは行動しなければならない。ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理念を実践に移さなければならない。」と、ロータリー活動は理念の提唱だけではなく、実践活動が

伴わなければならないことが明記されています。

さて、Service above selfは誰が提唱した言葉かは判りませんが、弱者に涙する人道的奉仕活動すなわち社会奉仕や国際奉仕(世界社会奉仕)のモットーであることは間違いありません。

現在このモットーは、利己の心を超越して、他人のことを思い遣り、他人のために尽くす Ideal of Service, which is thoughtfulness of and helpfulness to others. というチェスレー・ペリーの解釈がつけられ、Official Directoryの最終ページに収録されています。

社会奉仕活動が盛んになり、これに世界社会奉仕が加わって国際奉仕活動を含めたボランティア活動全般に広がってきました。社会奉仕とはコミュニティ・サービスの翻訳ですから、このコミュニティ範囲をどこにするかによって、その活動範囲が変わってきます。21世紀はボーダーレス社会だと言われています。ボーダーレス社会ということは、ボーダー(境界)が無いわけですから、コミュニティの範囲も地球全体に広がってくるわけです。従って、今後は社会奉仕という概念が拡大されて、現在の社会奉仕と世界社会奉仕を包括したようなものになり、それにロータリー財団の活動が加わって、これらが渾然一体となって機能していくのではないかと考えられます。なお、この人道的奉仕活動を端的に表現したモットーが service above self なのです。

一方、He profits most who serves bestというモットーについては、当初からヨーロッパ、特にイギリスのロータリアンは強い反発を持っていました。シェルドンは事業を学問と考へて、法則を当てはめたり、原因結果論から継続的な物質的利益をあげることを前提にした職業奉仕理論を提唱しましたが、イギリス人にとっては職業は神から与えられた天職であるという考えが前提であり、物質的な利益よりも道徳的宗教的な伝統を尊重する傾向がありました。さらにシェルドンの論文には神という言葉も天職という言葉も一切出てきませんし、敢えてVocationという単語を使わずOccupationを使っていることもイギリス人にとっては耐えられなかったのかも知れません。元来、天職という発想がカルビン、ルター、マックス・ウェーバーとヨーロッパに端を発しているだけに、シェルドンは敢えてこれに反発したのかも知れません。そのような経緯から、現在でも毎回のよう規定審議会には、イギリスから職業奉仕のモットーを廃止する提案が出し続けられています。

1927年のオステンド大会で四大奉仕が実施された際、そのパイロット・プログラムに参加したのがイギリスであったことから、職業奉仕がVocational Serviceと命名されたことから、職業天職論が主流となり、シェルドンの職業奉仕理念と大きな解離を見せるようになってしまいました。

その後は、イギリスの標的は職業奉仕のモットーの具体的内容を表した道徳律の廃止運動に変化していきます。その影響を受けて、シェルドンがロータリーを去った翌年の1931年に道徳律が頒布禁止になります。1948年にはRIの職業奉仕委員会が廃止になります。さらに1951年には道徳律そのものが廃止され、1980年にはRI細則に細々と残っていた道徳律という言葉も抹消されます。

1987年に40年ぶりに復活されたRI職業奉仕委員会が、「職業奉仕に関する声明」を発表します。実

はこの中に書かれている、「クラブが職業奉仕を実践する」という文章について疑義が生まれてくるのです。職業を持っている個人だから職業奉仕の実践ができるのであって、職業を持たないロータリークラブがどうやって職業奉仕の実践をするのかという疑問です。さらにRIはその具体例としても職場訪問、優良従業員の表彰、ボランティア活動をあげていますが、これが果たして職業奉仕活動かどうか、疑義のあるところです。

職業奉仕理念の衰退、職業奉仕活動の混乱に引き続いて、さらにその矛先がHe profits most who serves bestのモットーそのものに向けられてきました。1989年の規定審議会で、このモットーは第二モットーに格下げになり、Service above selfが優先されることになりました。

2001年の規程審議会で、あらゆるロータリーの文書や声明には、性限定用語を使わないという決議案が採択されたことを理由に、6001年6月のRI理事会は、He profits most who serves bestを使用停止にする決定をしました。日本からの猛反対のキャンペーンによって、RIは急遽、使用停止を撤回したものの、2004年の規程審議会において、They profit most who serve bestに変更されてしまいました。

なお、2007年の規定審議会において、ロータリーの原則はI serveであるという理由からThey profit most who serve bestがHe / She profits most who serves bestに変更されました。規定審議会には毎回のように第二モットーを廃止してService above selfに一本化しようというイギリスからの提案が出されています。He profits most who serves bestを失うことはロータリーから職業奉仕理念を取り去ることを意味します。He profits most who serves bestとService above selfの二つの奉仕理念を持っていることがロータリーの特徴であることを忘れてはなりません。

本日のセミナーのメイン・テーマである職業奉仕の事例研究に入りたいと思います。

毎日のように新聞紙上やテレビを賑わす企業の不祥事を見るたびに、「どうか、ロータリアンでありませんように」と心の底で願うのは私だけでないと思います。

業界の慣習だから、自分の会社だけでは是正できないと言い訳をする人もいます。しかし、ロータリアンは業界全体の代表者として、ロータリーの提唱する職業奉仕理念をその業界に広める義務があるのですから、敢えてその困難に立ち向かわなければなりません。

最も大切なことは、構造的な犯罪とも言われる不公正競争を是正することです。贈収賄や談合を業界の慣習として是認するのではなく、これを恥ずべき犯罪として粛清する勇気と努力が必要です。まず構造的な問題に対処する必要があります。会社のためにやったと言い訳をする人がいるかもしれません。それならば会社は誰のためにあるのでしょうか。会社は株主のためにあるわけではありません。社員のためにあるのでもありません。会社はその職業を通じて社会に貢献するためにあるのです。

「儲けようと思って事業を営んではならない。自らの職業を通じて社会に貢献するために事業を営みなさい。」職業奉仕理念の根底となるシェルドンの言葉を忘れてはなりません。

ロータリーは資本主義経済の下での自由競争を前提として生まれた組織です。自分の会社で作った素晴らしい製品を、それを必要とするすべての顧客に届けるのが原則であり、その意味からは、日本ではごく当たり前になっている系列化とか、一社に直属した下請制度は、ロータリーには馴染みません。親

会社の指示によって、生産ラインを増強しても、その製品を必ず親会社が引き取ってくれるという保障はありません。一社に頼らず、どこの会社にも納入できる素晴らしい製品を常に開発することが、企業を生き残らせる大きな要素なのです。

一世を風靡した「看板方式」も、自社で作った部品を能率よく製造ラインに届けるのならばともかく、在庫を減らすために下請け会社のリスクとして行うのならば、ロータリーの職業奉仕とはかけ離れた行為と言わざるを得ません。

品質が高い商品を販売したり、品質の高い技術を提供することが大切です。賞味期限が切れた製品や品質管理に問題のある製品を販売して会社の存続を危うくした不二家や雪印乳業の例を繰り返してはなりません。品薄に乗じて価格を吊り上げて一時的には儲けたとしても、需給のバランスが正常になれば、顧客は見向きもしなくなるに違いありません。店主や従業員の顧客への態度や気配り、豊富な品揃え、高い商品知識、一旦売った商品や業務に対する責任、顧客が感じる満足感と公平感、こういったものの全てがサービスであり、サービスの良い店には必ず顧客がリピーターとなって訪れたり、別の顧客を紹介してくれるのです。更に顧客の満足度の高い事業所は、結果として高い職業倫理を持った事業所だと言うことができます。顧客の満足度を高めるサービスこそが企業の永続的発展と成功を保証する唯一の方法なのです。

不祥事を起こせば信用は一瞬のうちに失墜します。しかし、一旦落ちた信用を回復するのは至難の業なのです。

一昨年の春に、鶏インフルエンザを巡って、浅田農産という会社の倒産と社長の自殺という痛ましい事件がありました。近畿圏の生協に広く鶏卵を納入していたことからこの会社が堅実な事業経営をしていたことが判ります。平常は10羽単位だった鶏の死亡率が、100羽、1000羽単位と対数曲線を描いて増えていったことに、もしや、鶏インフルエンザに罹ったのではないかと疑ったことは容易に想像できます。一瞬の判断のミスが致命的な結末に繋がります。もし、彼がロータリアンであり、四つのテストを知っていたならば、きっと正直に届け出たのではないのでしょうか。当然、会社にとっては一時的に大きなダメージがあったとしても、自ら命を絶つような事態には陥らなかったに違いありません。同じ時期に、同様な事態に陥った近所の養鶏場が、いち早く届出をしたために、一時的には大きな損失を被ったものの、行政から感謝状まで貰って、事業を継続していることから考えても、この四つのテストを拳々服膺しながら事業生活に適用することの大切さをしみじみ感じた事件でした。

自分の会社が利益を得ているのは、事業主の力量だけではなく、会社のために努力を重ねてくれた従業員や関連業者のお陰であることを忘れてはなりません。従業員や関連業者に対する適正な利益配分が行われているのでしょうか。最近、特許料を巡って数々の裁判沙汰が起こっていますが、これも従業員の技術に対する公正な評価が行われないことに対する不満ではないのでしょうか。

企業内の不祥事が表ざたになるのは、ほとんど内部告発によるものと言われています。従業員や関連業者の不満が高まると、これが内部告発という手段となって表面化し、屋台骨を揺るがすことになるので

す。

ロータリーの歴史を紐解けば、職業奉仕を旗印にして、悪しき習慣に正面から対峙した数々の記録が残っています。1920年代にはマフィアと対決して、禁酒法下の法整備や事業所や業界の道德律制定、商道德を高めるための各種の立法措置に全面的に関与しています。それらの業績がロータリーの評価を高めていることを忘れてはなりません。

現在、約束手形を使っているのは、世界中で日本と韓国だけで、それ以外の国では使っておりません。この約束手形は零細な下請業者を泣かす大きな原因になります。弱い業者ほど、高い割引料を払って現金化しなければなりません。支払元が倒産でもすれば、ただの紙切れにしか過ぎません。ロータリアンの取引は双方が満足する取引であることが原則ですから、相手にリスクを負わせる手形決済はロータリーには馴染みません。

第一次産業、第二次産業、第三次産業が均等に配分されていた時代に誕生したロータリーは、その後の産業構造の変化に対応させて、その職業奉仕の実践方法を変えているのでしょうか。今や、先進国においては一次産業と二次産業は衰退し、三次産業の金融や情報やサービスが突出している状況です。職業奉仕の理念は哲学として万古不易なものですが、その実践方法は時代の変化に適応して変化していかなければなりません。

ロータリーの職業奉仕は、もともと、為替の差益や伝票操作やM&Aによって利益を生むような職業を想定していたわけではありません。

ロータリーの職業奉仕理念は正業にのみ適用されるものなので、問題はこういった職業が正業か虚業かということになります。正業か虚業かの判断は至極簡単です。シェルドンの職業奉仕理念に基づけば、儲けようと思って事業を営んでいるのが虚業で、自らの職業を通じて社会に貢献するために事業を営んでいるのが正業だということになります。

会社の体質を健全なものにするためのM&Aは正業ですが、自分が儲けるためのM&Aは虚業なので、会社は誰のために存在するのかを今一度考えることが必要です。ライブ・ドアや村上ファンドやスチール・ホールディングスが果たして正業か虚業かを見分ける目を持つことが大切です。世間一般の考え方に惑わされることなく、ロータリーが確固たる職業に対する信念を持つことが大切なのです。

ロータリアンは、まず自分の事業の繁栄を考え、次に自分が属する業界全体の繁栄を考え、究極的には地域社会全体の繁栄を図らなければなりません。

日本のロータリアンには優れた技術を持っている零細企業や中小企業のオーナーが沢山います。電子レンジの技術として開発され、結果として携帯電話やコンピューターやステルス戦闘機にまで取り入れられた電磁波吸収塗料、あらゆる物質に可能なメッキ技術、ナノ単位の金属加工技術、こういったものは、全て日本の小さな町工場で開発された技術です。また、目を閉じていても、リンスかシャンプーかが判るように、キャップの形を変えた洗剤メーカーも立派な職業奉仕の実践者です。

ロータリアンはその業種の代表者ですから、ロータリアンだけではなく、地域社会のこういった優れた技術を国際的に紹介したり、仲介する責任を持っているはずです。WCSの交換プロジェクトのような技術登録バンクを作って、お互いに利用できるようなシステムを作り、クラブ・レベル、地区レベル、世界レベルに拡げていくことも、新しい観点からの職業奉仕になるのではないのでしょうか。

最近ではインターネットを通じた情報が入り乱れています。特に青少年に大きな影響を与えている不良サイトが問題になっています。ロータリアンが経営しているプロバイダーも数多くあると思いますので、これらの人が中心になってこの業界から青少年に悪い影響を与えている不良サイトをなくする運動を進めることも可能だと思います。同様にインターネットを経由して取引される麻薬や銃などの禁制品も、流通事業に携わるロータリアンの世界的な結びつきを利用して防止することも決して不可能なことではありません。

クラブが行う職業奉仕活動は、まず、クラブ会員に職業奉仕の理念を徹底的に理解してもらうことです。そのためにはシェルドンの職業奉仕理念を再度確認すると共に、職業奉仕活動の実践はロータリアンの事業所に継続的な利益をもたらすものであり、職業奉仕活動の実践による受益者はロータリアン自身であることを知らしめなければなりません。

更に、次に必要なことは、21世紀に通用する職業奉仕の実践方法を再構築することです。

21世紀の産業構造は大きく変化しています。20世紀には、第一次産業、第二次産業、第三次産業も上手い具合に均整がとれていましたし、職業も、親から譲り受けた職業、すなわち天職観の下にやっていたら良かったのです。しかし、21世紀の現在、第一次産業、第二次産業、第三次産業の枠が大きく崩れています。自分の事業を防衛するためには、職種を変更する必要すら出てくる時代です。そのためには、ロータリアンにメリットを与える職業奉仕の実践方法を抜本から再構築する必要があるのです。不況期にある今こそ、職業奉仕活動の受益者はロータリアン自身であることを実証しなければなりません。

IT化時代の到来によって、コンピューター一台あれば、注文から決済まで全てが済む時代になりました。インターネットを使えば、居ながらにして、世界で一番安い製品を見つけることができる時代なのです。そんな中で、自分の事業の業績を伸ばしていこうと思えば、それが可能になるような職業奉仕の実践方法を考えて行く必要があるのです。

例会の卓話の原点は事業上の発想の交換にあるのですから、クラブ内における職業情報の交換も大切な職業奉仕活動です。そして、ロータリアンのみではなく、地域社会全体を巻き込んだ職業奉仕事例を研究すると共に、それを実践活動に移していかなければなりません。

21世紀はどのような世界になるのでしょうか。この表を見ていただきたいと思います。2005年の推定人口は約64億5000万人です。これが2025年には78億。2050年には約92億になるという推定されます。地球のキャパシティーは約80億だと言われていいますから、これを越すこととなります。その一方で、先進国人口はほとんど変わらず、約11億です。これは発展途上国、開発途上国の人口爆発が起こることを意味します。更に言えることは、開発途上国、発展途上国はこれから50年の間にどんどん先進国

の仲間入りをするわけです。日本も50年前は貧しかったわけですから。先進国が増えるにも関わらず、先進国人口は11億で変わらないということは、先進国に極端な少子化現象が起こってくることを意味します。

すなわち、開発途上国では極端な人口爆発が起こると同時に、先進国では自分の国の労働力すら確保できない少子化現象が起こってくるのです。その結果、地球全体の環境破壊や資源が枯渇し、貧困を原因とする地域紛争が起こってくるでしょう。そう考えると、21世紀の後半は過密な人口と飢えと貧困と騒乱の時代であるとも考えられるのです。果たして人類は22世紀を迎えることができるのか、これを真剣に考える必要があるわけです。

人口爆発を抑える唯一の方法は、開発途上国における計画的出産によって人口を抑制することです。そのための現実的な方法として、若い女性を中心とした識字率向上があげられます。先進国の出生率は2人以下ですが、発展途上国では5-6名、開発途上国は8名、9名という出生率なのです。従って、私達は人口問題に対して、決して逃げることなく積極的に取り組んでいくことが必要です。宗教上の戒律から産児制限に反対する国もありますが、人類が生き延びるための英知を結集する必要があります。この分野では国連とロータリーとは連動して活動していますから、ロータリーがポスト・ポリオの最優先活動として識字率向上に取り組む必要があります。ちなみに、地球上の非識字者の数は10億人、成人の25%を占め、非識字者の2/3は女性であり、アジア人が75%を占めると言われています。

我々が如何に努力しようと、地球人口は確実に増加します。人口爆発をどう防ぐのかということをもっと真剣に考えていく必要があるのです。人間はこの50年間で、地球の資源のほとんどを使い尽くしてしまいました。後の世代に何も残さずにみんな使い切ろうとしています。これは謝って済む問題ではありません。

今まで持ってきた価値観をここで180度変えなかつたら、地球は必ず滅びます。ですから今までの物質至上主義を捨てて、心の豊かさを優先する考え方に換えていく必要があるのです。大量生産、大量消費というアメリカ文化に決別して、東洋とか、ヨーロッパの伝統的な考え方である、物を大切にするとか、皆なで分かち合うといった精神を発揮していかなければ、人類は破滅してしまうのです。

そう考えればロータリーの存在価値は極めて大きいものがあります。価値観の転換は一朝一夕にできるものではありません。だから今から考え方を転換していかないと手遅れになります。もう20年後には、その兆しが起こってきます。この中にもそれに遭遇する方がいるはずですが。価値観を転換することに関するロータリアンのリーダーシップが、大きく期待されます。

もう20年も経てば、途上国における人口爆発と、先進国における労働人口減少の影響が現れてきます。その影響が経済不況を招き、20世紀初頭のような弱肉強食の時代が訪れれば、再び職業倫理が低下することでしょう。その時、私たちロータリアンはロータリーの職業奉仕の原点に戻って、その抑止力として機能する必要があります。刻々と変化する社会情勢に適応するように産業構造は変化していきます。私たちは、変化していく産業構造に合わせて、自らの事業を存続させていかなければならないのです。ロータリーの職業奉仕の受益者は、ロータリアンであることを忘れてはなりません。

先進国では少子化や高齢化による労働人口の減少によって国家財政基盤が脆弱化することが予測され

ます。社会保障や年金も、給付対象と費用負担をめぐって大きな問題が起こってきます。従って、先進国では、福祉や社会保障制度を国家として維持できず、民間のNPOに委ねざるを得ない時代が必ずきます。イギリスでは、「揺りかごから墓場まで」というサッチャーの時代は終わり、福祉や社会保障制度は民間のNPOに委ねるブレアの政策に代わりました。日本を含む先進国全体にそういう時代がくることを予測しなければなりません。

さて、グレン・エステス元RI会長は、「ロータリーは民間最大のNPO」と延べています。もしもそうならば、NPOとしてのロータリーの責任は極めて重くなり、現在的人道的見地からの世界レベルの社会奉仕、国際奉仕のボランティア活動に加えて、自らの国の社会保障制度に関しても、ロータリーがイニシアチブをとる時代がくることを予測しなければなりません。

NPOやNGOは政府が行わない特定分野の活動を、政府に代わって行う組織ですから、当然、政治に関与することになります。従ってロータリーをNPOと定義して、その活動を期待するのなら、その前にロータリーの政治禁の問題を解決しておく必要があります。

再三申し上げるように、職業奉仕実践の受益者はロータリアンです。他の奉仕活動の受益者はロータリアンであってはならないと定められているのに反して、職業奉仕活動によって大きな恩恵を受けるのはロータリアンなのです。もし、現在のロータリー活動にメリットを感じないとすれば、それは職業奉仕活動が充分行われていないことを意味します。ぜひロータリー運動の最も重要な目的は職業奉仕にあることを自覚して、職業奉仕の実践こそが、自らの事業を発展させる最大の要素であり、その結果として現れるのが自らの事業と業界全体の職業倫理高揚であることを自覚して、魅力あるロータリー・ライフを送ってください。



第1分科会

2007-08年度各クラブ会長対象

カウンセラー パストガバナー・地区研修リーダー 高木 貞一郎  
リーダー ガバナーエレクト 横山 公一  
サブリーダー ガバナー 津久井 義孝

報 告

第1分区ガバナー補佐 井上 芙美子



第1分科会につきましては、2007～2008年度の会長の方針又は意見等を発表していただきました。その中で主な方針及び意見について下記にまとめました。

(なお時間の都合上第五分区と第六分区が発表できませんでした。)

第1分区

前橋RC 遠山 巍 会長

- ・合唱を聴く会
- ・自分のクラブを誇りに思うクラブにしていきたい
- ・出席がたのしくなるよう

前橋西RC 町田 庄吉 会長

- ・会員増強 15名～20名 達成可能

前橋北RC 戸所 仁治 会長

- ・ロータリーの野球で初めて甲子園に行き、20対4で勝利してきた。
- ・サンフランシスコの町一昼食年一回、ソフトボールの大会、ふれあいの機会を増やしたい

**前橋中央RC 佐藤 正雄 会長**

- ・ 地行園の支援、毎月お誕生日会をしている、ふれあう機会を増やしている
- ・ CLP推進委員会を作成するフォーラムを増やす
- ・ 20周年の目標のビジョンを立てる

総評 **パストガバナー 高木 貞一郎**

**CLP－クラブの組織運営の合理化をはかることが目的**

第2分区A

**桐生RC 佐々木 裕 会長**

- ・ FM桐生が立上げ、メンバーが出資していろいろPR出来るように整えた。  
一般市民番組作りを続けたい
- ・ 創立55周年を迎える

**桐生南RC 川堀 良治 会長**

- ・ クラブは例会で始まるので月一回夜間例会とする
- ・ 次年度月一回ネクタイ、その他はノーネクタイとする

**桐生西RC 中野 幸三郎 会長**

- ・ 大間々高校の模擬面接を事業主になって面接をしている
- ・ 老人ホーム訪問年4回 会員よりマジックショー等をしている

**桐生中央RC 渋木 敏明 会長**

- ・ 初代会長の引継 社会ポケットの寄付をもらい
- ・ 知的障害者—クリスマスに全員招待している

**桐生赤城RC 武井 庄太郎 会長**

- ・ ロータリーの野球で甲子園に2回出場している

総評 **パストガバナー 高木 貞一郎**

**バランスのある奉仕活動をした方が良い（親睦と責任）**

第2分区B

**伊勢崎RC 前原 恒春 会長**

- ・ 親睦が中心すぎた。
- ・ 地域社会奉仕を重点的にする。

**群馬境RC 石原 順一 会長**

- ・ 38年目—14回国際大会に出席している
- ・ 海外に奉仕したい

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

- ・利根川、広瀬川—堤防の中を倍にしてもらい、河津桜、染井吉野桜等を植え、ロータリー川津桜と名付け、町の人々に喜ばれている。

### 伊勢崎南RC 保坂 恒明 会長

- ・野球—甲子園に来年は行く

### 伊勢崎東RC 松村 史也 会長

- ・フィリピンに水の浄化装置作った。継続的に水の支援を行う。

## 第3分区

### 高崎RC 羽鳥 修司 会長

- ・新しく高崎市になった地域を広めて行く、ロータリーぐるみでお祭りに参加する

### 高崎東RC 井草 秀樹 会長

- ・会員52名でメンバーの気持ちが若い、出席率が良い
- ・ロータリーの楽しさを会員の奥様にも分かちあいたい、例会に参加してもらう。正に ROTARY SHARESである。

### 高崎セントラル 三井田 賢一 会長

- ・地球に優しい、からす川の植林を3年する

## 第4分区A

### 太田西RC 荒井 壮佳 会長

- ・クラブ内の委員会の活動、出席委員会、会員増強委員会を重点的におく
- ・社会奉仕、地域の文化財を保護し、ロータリーのPRをすすめる

### 新田RC 正木 留男 会長

- ・25周年—じゃが芋を植え、6月収穫してじゃが芋祭を行う

## 総評 パストガバナー 高木 貞一郎 強調月間に地区で卓話者を準備している

## 第4分区B

### 館林東RC 富田 佳典 会長

- ・米山奨学金に理解していただき15000円の目標達成

### 館林ミレニアムRC 近藤 候近 会長

- ・国際交流協会 館林よきこいソーランを支援している、市民と外国人との交流を行っている

第5分区と第6分区は発表なし

以上、主な点のみの御報告と致します。

第2分科会

管理運営委員会・IT委員会

カウンセラー	パストガバナー	矢野	亨
リーダー	管理運営委員長	本田	博己
サブリーダー	IT委員長	石原	保幸

報 告

第2分区Aガバナー補佐 笠原 康 利



本田管理運営委員長をリーダーとし、サブリーダーに石原IT委員長、カウンセラーとして矢野PGをお迎えし、分科会を行った。

まず本田管理運営委員長から会員増強について下記の報告があった。

日本のロータリアンの数は年々減少が続いている。一クラブの平均会員数は40人台だが、20人規模のクラブが一番多く存在している。会員拡大を行う為にはクラブを活性化し魅力あるロータリークラブ作りを行わなければならない。その為にはCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）を導入し、クラブの体質強化と活性化を図らなければならない。

地区ではDLP（地区リーダーシップ・プラン）によってガバナー、ガバナー補佐、地区委員会の任務と責任を明確にし、クラブ活性化の為、地区内クラブの支援を行う体制を整えた。

CLPを導入し、クラブの現状を把握し理想のクラブ像を造り、目標を設定し、目標に基づき委員会構成とクラブ細則を変更する。奉仕プロジェクトや親睦活動に総ての会員が積極的に参加し、継続的な研修の機会を提供するクラブを作る。例会、委員会活動や奉仕プロジェクトに、一人一人の会員が主体的

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

に参加する事によって会員満足度が高まる。会員の充実感、参画意識、やりがいをもつ事によって、クラブ全体の組織活力が高まり活力のあるクラブになる。

管理運営委員会ではCLPの導入・運営支援の為、卓話や研修の出前サービスを行いCLP導入のサポートを行う。

石原IT委員長よりIT委員会の活動計画の説明が行われた。

メーリングリストを作る事により、地区よりRC事務局への情報発信が効率よく行うことができる。さらにペーパーレス化により経費の削減もはかる事が出来る。しかし、未だメールを使っていないクラブがあるので、IT委員会としても開設に向かって協力するとの事である。

クラブのホームページを持っていないクラブに対し、IT委員会でホームページ作成のお手伝いも行うとの事であり、ホームページ上での広報活動等を考えているクラブはこの機会を利用して頂きたいと、熱意溢れる説明が行われた。

もりだくさんの内容であった為、時間が足りなくなったが、これからのロータリー活動に大いに有意義な分科会であった。

第3分科会A

青少年交換委員会、世界社会奉仕・友情交換委員会

カウンセラー パストガバナー・地区研修委員 清 章 司  
リーダー 青少年交換委員長 小 暮 高 史  
サブリーダー 世界社会奉仕・友情交換委員長 大 島 雅 彰

報 告

第2分区Bガバナー補佐 菊池榮作



(1) 青少年交換委員会

冒頭に「予算はたっぷりあります。クラブの負担はゼロです。安心して一年交換学生、夏期交換学生を推薦して欲しい」との話があり、実情として学生の応募が少なく青少年交換プログラムが良く理解されていないとの思いが語られました。従来夏期交換はローテーションを組んで、各クラブに均等の機会を与えました。しかし現在はキャンセルするクラブが多いため、このシステムは今はなく公募して学生を集めているのが実情です。

地区内において一年交換、夏期交換を経験したクラブは半分で、できれば未経験クラブにチャレンジして欲しい。又、ポスターや新聞等を使い生徒にアピールしていきたいと提起されました。

青少年交換の経験は、青少年に測り知れないほど好影響を与えます。地元の青少年に貴重な体験の機会を提供するだけでなく、外国から迎える学生と自分達の文化交流が出来るのです。交換学生の意義を熱く語りました。

(2) 世界社会奉仕・友情交換委員会

ロータリー友情交換の目的は、他国のロータリアンの家に滞在することでロータリーの国際性を体験し世界理解を推進することです。

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

友情交換には2種類あり、一つは個人、もう一つはチームで相手国のロータリアンの家庭に数日間滞在するもので家族も同行出来ますと説明がありました。

次に世界社会奉仕委員会に移り、委員会の目的、今年度の事業計画が発表され特にWCS活動に力を入れないとの思いが伝わってきました。

WCSにしてもマッチンググラントにしても活動への一歩をふみ出すには友好クラブ締結をすると容易になる。相互の情報がスムーズになり理解と友情を深め、MGの意味あるプログラムの立案が易くなるからです。そして、WCSの極意として、百聞は一見に如かず、百聞は一臭に如かず、大島委員長の卓越した感性、感覚を感じいる一節であります。

ドブ川のすさまじい悪臭を感じたとたん清流に変えたい、周辺の住民に安心して飲める水を確保したい、ロータリアンは匂いに敏感であれ、そして行動しようと提起されました。

又、WCSの一例として、フィリピン刑務所に劣悪な環境の女囚に二段ベッド寝具、扇風機、ミシン、教育の道具、コンピューターを贈り環境を改善、結果全ての女囚が間としての尊厳を取り戻し、手に職をつけ立派な社会人に更正したそうです。

最後に理想的なWCSとは、投資効果が高く自立型がよい。特に教育の道具を供与すると有効である。地域住民の職業人としての質的向上を助成し就労率を高め、やがてこの事はその地域に定着するでしょう。

貴重なアドバイスでした。

## 第3分科会B

## ロータリー財団委員会

カウンセラー	パストガバナー・地区研修委員	清	章	司
カウンセラー兼リーダー	パストガバナー・ロータリー財団委員長	森	田	均
サブリーダー	研究グループ交換・学友会・ポリオプラス委員長	内	山	均

## 報 告

## 第3分区ガバナー補佐 安藤 震太郎

## 1. ロータリー財団分科会に於ける検討内容

分科会はロータリー財団委員長 森田パストガバナー及び清パストガバナーの指導の下に財団の使命と役割、奉仕活動と資金調達、寄付金の使途、年次寄付の目標について説明を頂いた。時間の関係からすべてを説明しきれないが、詳細は8月25日開催の財団セミナーにて説明する。

## (1) ロータリー財団の使命と役割

ロータリー活動は博愛及び人道的な行事を推進することを目標としている団体でありその中核をなすのがロータリー財団活動である。それを地区・全国・国際レベルにて行い世界理解と平和を達成させる役割を担うものである。

## (2) 奉仕活動と資金調達

これは車の両輪のようなもので両方があって目的を果たす。従来ややもすると資金調達に重点が置かれている嫌いがあるが資金調達を入り口とすると出口は奉仕活動である、奉仕活動を行うことにより財団の意義が理解され資金調達がスムーズになる、会員に対して理解と説明をお願いする。

## (3) 寄付金の使途

年次寄付はシェアシステムにより寄付された年次から3年後に使用される仕組みである。(横山年度は山崎年度の年次寄付金を使用できる)又寄付総額の50%を地区財団活動資金として還元される。(残りは国際活動資金となり教育的プログラムや人道的補助金プログラムなどを通じて有効に使用される) ちなみに津久井年度は190万円の予算であり、横山年度の予算は17,400ドルとほぼ前年並みの金額となるので積極的に有効な活動に使用してほしい。

## (4) 年次寄付並びに恒久寄付の目標

横山年度の年次寄付の目標は200,000ドルである、地区の会員数で割ると一人当たり100ドルの寄付額になる目標の必達をお願いする。恒久基金5000ドル又大口寄付(1万ドル)にしてもらう人を3名さがす。

以上の様な解説及び目標の提示があった。

## 2. 危機管理委員会に於ける検討内容

分科会は委員長森田パストガバナーの指導の下に検討が行われた。冒頭森田委員長は委員会設立の経緯について以下のように解説された。ロータリーの重要かつ大切なプログラムの一つである[青少年交換プログラム]に於いて、これまで稀に青少年が事件事故あるいはハラスメントの被害を蒙るトラブルが発生する場合があった。これに対して国際ロータリーはこれらの問題について保険加入その他危機管理の具体的指針が示された。これを受けて第2840地区は2006年10月22日危機管理規定を制定し危機管理委員会が発足した。

以上の事で本年度より新たに加わった委員会である。幸い今までに問題の発生は無いが今後保険一つをとっても難しい問題もあり注目して経緯を見守ってほしい。



第4分科会

新世代奉仕委員会

リーダー インターアクト委員長 大本 計馬  
サブリーダー ローターアクト委員長 中島 博  
ライラ委員長 蓮 直孝

報 告

第4分区Aガバナー補佐 中村 康 夫



建設的な計画がなされ各リーダーの熱意が感じられ非常に良かったと思います。

インターアクトの海外研修では約半分の7万円で3泊4日の台湾研修に参加できるので大勢の人に是非参加して欲しいと要望がありました。

ローターアクト、ライラ委員会に関しては年齢制限等があり年々メンバーが減りこのままでは存続が危ぶまれると言う切実な意見で終始いたしました。ロータリアン自体の減少も影響しているとは思いますが私たち役員だけの努力でどうなるものでもありません。ロータリアン一人ひとりが夫々自分たちの問題として心配し考えて欲しいと訴えました。このことで質疑応答の時間の大半が費やされ問題の根の深さを、本当に皆さんが心配なされていることを痛感いたしました。

こういった場に若い人たちがこぞって参加すれば必ずや将来を背負っていく指導的な人材の育成も出来、ロータリーの理念、理想を伝える事が出来ると思います。

若い世代の人たちが勉強だけでなく常に人を思い、家族を大事にする人間愛スタイルを感じとってもらいたいです。

心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる。

先生や先輩そして指導者に恵まれると努力が出来ます。努力出来ることは才能でもある。

第5分科会

広報・オンツーロサンゼルス

カウンセラー	パストガバナー・地区研修委員	関 口	隆
リーダー	広報・オンツーロサンゼルス委員長	高 橋	嘉一郎
サブリーダー	ロータリーの友委員	佐 藤	修

報 告

第4分区Bガバナー補佐 野 間 政 弘



高橋委員長のリードの下、48名の参加者で行なわれました。

まず、広報についての基調講演が関口カウンセラー、佐藤サブリーダーのお二方によって行なわれました。

関口カウンセラーから広報とは「良心の命ずるところに従って活動した内容を伝えていく事である。」そして陰徳のお話。明治維新以降、日本という国が、日清戦争、日露戦争、それ以降の条約において、大変な辛酸労苦を経てきたお話を格調高く拝聴する事ができました。

佐藤サブリーダーからは、ロータリーというものをいかに一般の方々に知って頂くか？広報の委員長はクラブを代表するスポークスマンであり、他の種々の団体、地域等に呼びかけて、輪を広げていく役割を担っており、常にメディアとも連携を取りながらロータリークラブ内外へ情報を発信していく事が大切というお話を頂きました。そして、広報を会員増強へと結びつけて結果を残されているお話には、大変興味を惹かれました。

その後、参加者の中から6名の方に各クラブでの広報活動の実態を発表していただきましたが、各々、ホームページ作成、インターネット環境整備、また、地域メディアへの自クラブ活動の紹介等、とても地道に素晴らしい活動をされている事が発表されました。

最後にもう一つの柱である、オンツーロサンゼルス（07-08）の予定概略の発表を高橋委員長と企画旅行社より報告があり、これも広報を通して周知、PRしていき、参加者100名を目標に盛り上げていこうという事で会を結びました。

以上

## 報 告

### 第5分区ガバナー補佐 新井 尚文



分科会に於ける米山奨学委員会は概略以下の通りです。

冒頭、野辺委員長が挨拶の中で、米山は吾が国で民間最大の奨学団体であります、横山年度においては各クラブの例会で、多くの奨学生による経験談等を卓話に取り入れられるよう取り計らって行きたいとの方針が示され、続いて3人の奨学生経験者等による意見発表となりました。

3人とも女性で、はじめはこの4月から奨学生となった台湾出身の徐雅亭さん。群馬大学の4年生で中之条RCが世話クラブとなりますが、目下卒業論文に没頭しているとのことでした。次は、中国内モンゴル出身の倪鏡さん。高崎経済大学大学院後期博士課程を間もなく卒え、東京での就職も決まっているとのこと、2002年～2003年の奨学生で沼田中央RCが世話クラブでした。おしまいは、中国出身で今は日本名の大路潔江さん。米山学友会会長をつとめて後輩奨学生たちの面倒をみているようですが、1997年の奨学生で高崎東RCが世話クラブでした。ともかく彼女たち3人が異口同音に云うことは、日本の社会状況や地域を知り馴染んで生きていく上で、世話クラブのロータリアンの人達に接して教えてもらったり話し合ったことが、どんなに役立ったか計り知れない、今でも世話クラブを訪問することが日本を広く知る上で、とても勉強になると云っていたことです。特に倪鏡さんは、大学院での専攻が農業政策だったので奨学生の期間を過ぎた後もイベントに招かれ、「沼田の人達に接して話を聴くことが出来たことが、どんなに役立ったか知れない」と述懐していたことが印象に残ります。

次に、カウンセラーとして碓氷安中R Cの静朋人さんが、津久井年度に中国は大連出身の高崎経済大学に通う奨学生の世話をした体験を話されました。はじめは中国と云うことで反日を心配したそうですが、そのような気配は微塵もなかったそうです。ただその学生は車も無く、奨学生になるまで大学での勉強以外は近くのパチンコ屋でのアルバイトに明け暮れる毎日だったそうですが、米山奨学生になってからは生活の不安に脅かされることもなくなり、アルバイトは止めてひたすら勉強に専念して、東京の会社に就職したそうです。静さんはこの体験から、ともするとロータリアンよりも高級車に乗る奨学生が居るような風聞を耳にするが、米山はこのように貧しくて生活の不安に脅かされながらも日本での勉強に真剣に励もうとしている若者たちへ支給してこそ意義があるので、そのような方法がもっと取り入れられることを期待すると述べました。

また、野辺委員長からの「米山奨学事業豆辞典」を基に作成したパワー・ポイントによる説明がありましたが、奨学資金は申す迄もなくロータリアン一人一人の寄付によって成立っているので、「普通寄付」の1人当たり1万5千円は是非お願いしたいとのことでした。

詳しくは、お手元の「米山奨学事業豆辞典」をお読み下さい。

第7分科会

職業奉仕委員会

リーダー (講師)RID2680パストガバナー 田中 毅  
カウンセラー パストガバナー・地区研修委員 曾我 隆一

報 告

第6分区ガバナー補佐 須 永 勝



午前には講演して頂いた田中 毅リーダーのもと、ロータリークラブの生い立ちからの歴史や通説の間違い探しを、クイズ形式でおもしろおかしくお話を頂きました。

主な例として

1. 1905年にポールハリスがロータリーを創立したというのは間違いで、第1回全米ロータリークラブ連合会年次大会議事録によれば、1904年となっている。初期ロータリーにはほとんど記録が残っておらず、諸説ある中で、RI理事会は1905年2月23日をロータリー創立日と定めたというのが正解。  
また、ポールハリスは恵まれた裕福な家庭で育ったというのも間違いで、その少年期・青年期は非常に不遇であった。
2. ロータリーの会合は点鐘に始まり、点鐘で終わるというのも単なる習慣で日本だけであり、例会時間は1時間という時間の決まりも無い。始まりだけ決めておけば良い。  
欧米のクラブでは3～4時間から、半日時間を使うクラブも多い。
3. 事務局・事務局員を置いているのは、日本・台湾・韓国ぐらいであり、他の国ではメンバーが200人以上いるクラブだけである。

その他

田中先生のRIでのロータリー活動でのエピソード等をお話し頂き、楽しく有意義な時間を過ごしました。

## 各 表 彰

(曾我年度ロータリー財団の各種表彰)

授与者・・・曾 我 隆 一 直前ガバナー

### ① 1人当たり寄付額の上位クラブ

1. 前橋RC 183.48ドル
2. 沼田RC 165.31ドル
3. 桐生南RC 156.26ドル

### ② 100%「財団の友」会員クラブ・・・全会員が財団の友で、且つ1人当たり100ドルを達成したクラブ

藤岡南RC

### ③ 「毎年あなたも100ドルを」クラブ・・・全会員が100ドル以上寄付したクラブ

1. 藤岡南RC 134.62ドル/人
2. 桐生RC 139.99ドル/人
3. 桐生赤城RC 129.27ドル/人
4. 沼田中央RC 124.36ドル/人



## 「講 評」

地区研修リーダー 高木 貞一郎

今日一日長時間に亘り地区協議会に参加を頂きましたが、皆さんがクラブのリーダーを務め、来るべき年度の準備は整いましたでしょうか？

航空機で言いますと、テイクオフにむけて離陸地点にタキシングをしているところです。

後1月半、いよいよ皆さんの年度となります

ロータリーも2世紀に入り、色々な意味で一つのターニングポイントを迎えています。

会員数の伸び悩み、それに伴う組織上でのクラブ活動慢性化、会員の価値観の変化による活動参加意欲の低下など種々の問題に直面しています。

RIも05年06年と「RIの7目標戦略プラン」を出し、07年には6つの優先事項をその延長線上で提示しております。

その中で出て参りました「CLP-クラブ・リーダーシップ・プラン」は、地区の管理運営の合理化を目的とした「DLP-ディストリクト・リーダーシップ・プラン」が96年に推奨実施されたものと両輪的に、クラブの管理運営の合理化を目的として推奨されました。

クラブの長期目標を建ててクラブの運営方法を策定し指導の一貫性、計画の継続性をはかる、加えてクラブの組織をスリム化して、会員全員活動参加を図りクラブメンバーを結束させる、又クラブメンバーの縦断的な研修を実施してロータリアン意識の高揚を図る というものであります。

世の中のニーズは、短期的な奉仕プログラムのみでなくロータリーのワンイヤールールを超えた長期的な奉仕プログラムを必要とするものになり、それに対応したクラブ組織も全員が活動に参加し得るものにして、観客席で見ているだけのメンバーを全員プレーに参加させるといったクラブの組織、運営管理の合理化プランです。

地区では、23クラブが採用しており、横山ガバナーエレクトもクラブに適応すると判断したクラブは積極的に採用を推奨されております。

最後に、次年度お願いしたいこと、それは「例会」を「出て来たくくなるような魅力ある例会」にして頂きたい 例会こそロータリーそのものであります。

魅力ある会員相互交流の時間、魅力ある食事、魅力ある卓話、この魅力ある例会の延長線上に魅力ある奉仕活動が展開できます。

会員も自ずから充実するクラブが構築できましょう。

きたる07～08年度が皆様のクラブにとって、実りある年度になりますよう、本日参会の皆様方の素晴らしいリーダーシップに期待をこめて、本地区協議会の講評ならぬ所感と致します。

大変にお疲れ様でした、この後は懇親の場で御座います、地区内の次年度クラブリーダーのロータリアンと交流し、寛いでアフターアワーのひとときを楽しんでください。

○ 地区大会実行委員長挨拶・・・割田一敏君（沼田RC）



大会日・・・平成19年10月14日（日）

場 所・・・利根沼田文化会館（沼田市）

○ 次期地区協議会ホストクラブ挨拶・・・加納紀一郎君（富岡中央RC）

大会日・・・平成20年5月10日（土）

場 所・・・生涯学習センター（富岡市）

○ 閉会挨拶・・・地区協議会実行委員長 浅川忠良君（沼田中央RC）



懇親会



◀ ご挨拶  
ガバナー 津久井義孝君



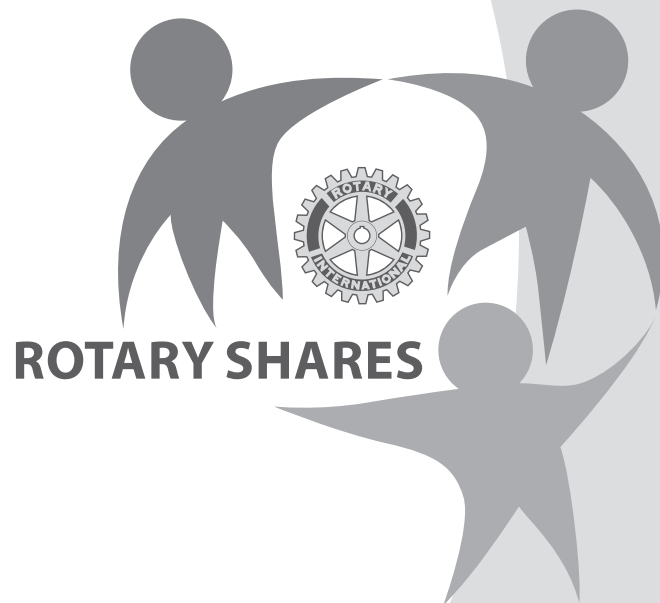
乾杯  
ガバナーエレクト 横山公一君 ▶



◀ ホストクラブ会長  
生方 彰君

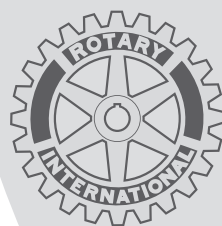


「手に手つないで」合唱 ▶



2007~2008 年度 地区協議会

# 出席者一覽表



## 出席地区役員名簿

役職名	氏名	所属クラブ
パストガバナー 国際ロータリー理事 ガバナー諮問委員	重田 政信	高崎北
パストガバナー 地区研修リーダー ロータリー財団 補助金・奨学金等委員長	高木貞一郎	館林
パストガバナー ガバナー諮問委員 地区研修委員	関口 隆	前橋西
パストガバナー ガバナー諮問委員 地区研修委員	清 章司	藤岡
パストガバナー ガバナー諮問委員	矢野 享	桐生西
パストガバナー ガバナー諮問委員 地区研修委員 R財団・危機管理委員長	森田 均	渋川
パストガバナー ガバナー諮問委員 会員組織強化カウンセラー	山崎 學	高崎南
直前ガバナー ガバナー諮問委員 地区研修委員	曾我 隆一	前橋
ガバナー	津久井義孝	太田
ガバナーエレクト	横山 公一	沼田
ガバナーノミニ	松倉 紘洋	富岡
第1分区ガバナー補佐	井上芙美子	前橋中央
第2分区Aガバナー補佐	笠原 康利	桐生中央
第2分区Bガバナー補佐	菊池 榮作	伊勢崎
第3分区ガバナー補佐	安藤震太郎	高崎北
第4分区Aガバナー補佐	中村 康夫	太田西
第4分区Bガバナー補佐	野間 政弘	大泉
第5分区ガバナー補佐	新井 尚文	中之条
第6分区ガバナー補佐	須永 勝	安中
地区幹事	長谷川嘉宣	太田
地区幹事	保坂 充勇	沼田
地区幹事	坂内 光政	前橋
次年度地区幹事	村上 明男	富岡
地区会計長	岡田 孝夫	太田

役職名	氏名	所属クラブ
地区財務委員	林 良昭	沼田
次年度地区財務委員	横山 昇一	富岡
地区会計監査人	横山太喜夫	前橋中央
ロータリーの友委員	佐藤 修	高崎南
広報・オンツローサンゼルス委員長	高橋嘉一郎	太田中央
管理・運営委員長	本田 博己	前橋
IT委員長	石原 保幸	前橋東
青少年交換委員長	小暮 高史	館林
世界社会奉仕・友情交換委員長	大島 雅彰	富岡中央
インターアクト委員長	大本 計馬	前橋東
ローターアクト委員長	中島 博	前橋南
ライラ委員長	蓮 直孝	桐生
研究グループ交換 学友会・ポリオプラス委員長	内山 均	前橋東
米山奨学委員長	野辺 昌弘	館林
地区副幹事	関 延夫	沼田
地区副幹事	金子 吉志	沼田
地区副幹事	今井 幸吉	沼田
地区副幹事	関 真一	沼田
地区副幹事	永井 彰一	沼田
地区副幹事	津久井 功	沼田
地区副幹事	斎藤 正典	沼田
地区副幹事	武田 寛	沼田

## 出席地区委員名簿

役職名	氏名	所属クラブ
広報・オンツローサンゼルス委員会委員	星野 榮助	桐生 赤城
広報・オンツローサンゼルス委員会委員	小林 京子	富 岡
管理・運営委員会委員	豊川 一男	藤 岡 南
管理・運営委員会委員	小暮 義明	藤 岡
管理・運営委員会委員	田代 経量	沼 田
IT委員会委員	宮田 美行	沼田中央
青少年交換委員会委員	難波 伸男	前 橋 北
青少年交換委員会委員	峯岸 則幸	伊 勢 崎
青少年交換委員会委員	大島 秀男	高崎セントラル
青少年交換委員会委員	峯岸 正典	富 岡
世界社会奉仕・友情交換委員会委員	竹内 靖博	桐 生
世界社会奉仕・友情交換委員会委員	小池 敏郎	館 林
世界社会奉仕・友情交換委員会委員	南澤健一郎	茨 川
世界社会奉仕・友情交換委員会委員	佐藤三千子	富 岡
インターアクト委員会委員	下井田秀一	桐 生 西
ローターアクト委員会委員	栗原 博	太 田
ライラ委員会委員	平田 育夫	前 橋 西
ライラ委員会委員	田中 和彦	富岡中央
研究グループ交換・学友会 ポリオプラス委員会委員	福島 英人	前 橋
研究グループ交換・学友会 ポリオプラス委員会委員	数納 篤紀	前 橋 西
研究グループ交換・学友会 ポリオプラス委員会委員	真下 信也	茨 川
研究グループ交換・学友会 ポリオプラス委員会委員	浅川 達郎	富 岡
米山奨学委員会委員	高山 昇	前橋中央

役職名	氏名	所属クラブ
米山奨学委員会委員	豊泉 政治	太 田 西
米山奨学委員会委員	小林 夏夫	富 岡
米山奨学委員会委員	静 朋人	碓氷安中
ロータリー財団補助金・奨学金 年次寄付・恒久基金委員会委員	藤口 光洋	前 橋 中央
ロータリー財団補助金・奨学金 年次寄付・恒久基金委員会委員	下嶋 昭夫	伊 勢 崎
ロータリー財団補助金・奨学金 年次寄付・恒久基金委員会委員	岩井雄二郎	太 田 南
ロータリー財団補助金・奨学金 年次寄付・恒久基金委員会委員	都筑 秀雄	中 之 条

# ロータリー第 2840 地区各部門別参加者一覧

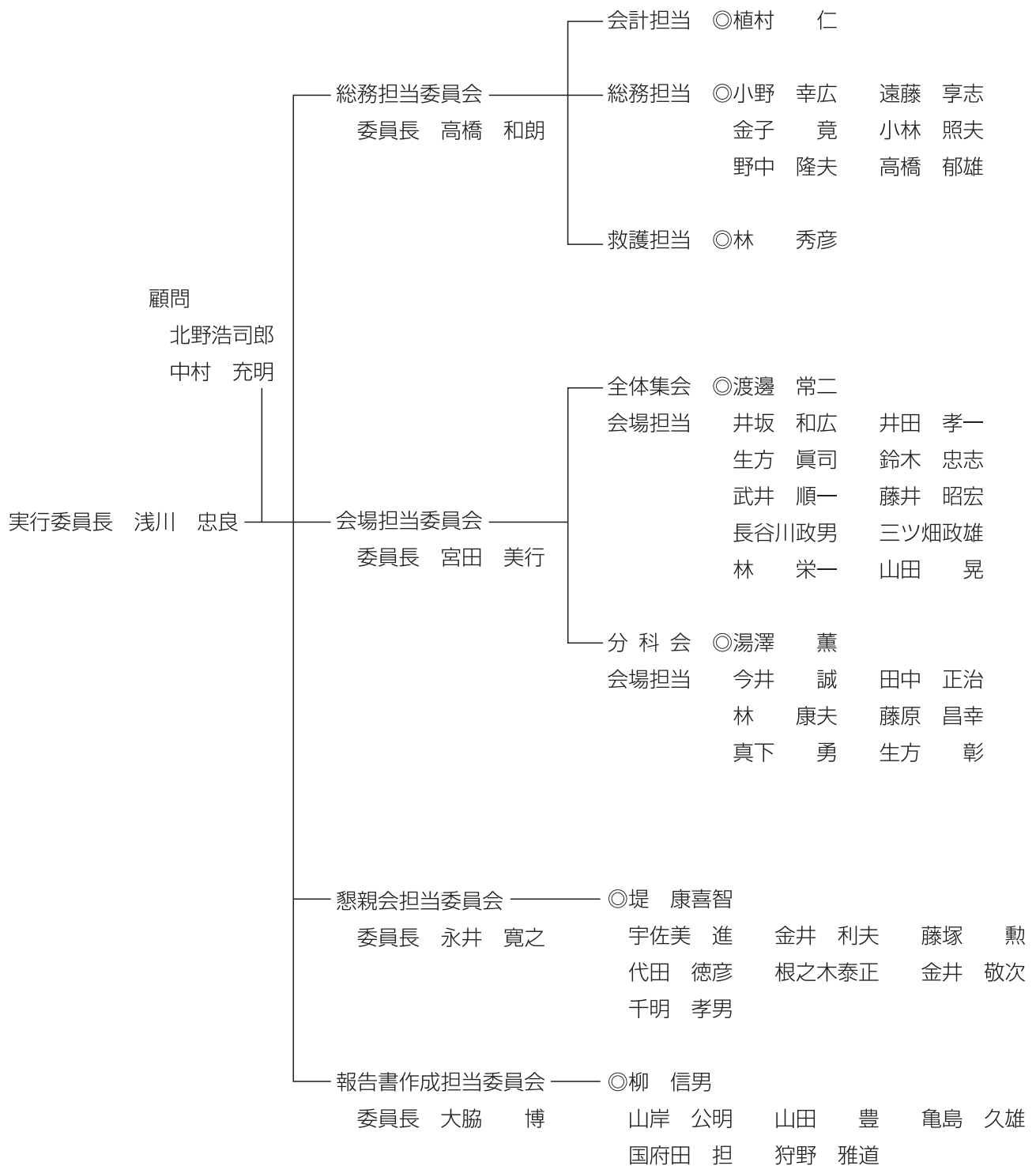
	分科会	第 1 分科会	第 2 分科会				第 3 分科会			
	クラブ	会 長	幹 事	会長エレクト	会員増強	管理運営	I T	国際奉仕	ロータリー財団	
第一分 区	前 橋	遠山 巍	鴻田 敦	坂内 光政		藤澤 茂	江原 毅	後 昌司	片桐 伸也	
	前 橋 西	町田 庄吉	渡邊 敏彦	阿久津眞一	峰岸 祥子	藤井 信行		山本 典輝	大崎 巖	
	前 橋 東	佐藤 信一	増岡 俊治	関 文彦			石原 保幸	今村 昌雄	細野 正己	
	前 橋 北	戸所 仁治	坂本 清	大島 秀夫	石垣 登	立見 丈夫	樋澤 一幸	宮田 輝	岡崎 政夫	
	前 橋 南	野口 道雄	太田 正史	岩崎 宏行	永井 豊	八木原重喜	橋田 博	高木 俊一		
	前橋中央	佐藤 正雄	北爪 國平	菅井 貞男	小磯 正康	横山太喜夫	横山 敦志	佐藤 信一	福島 克彦	
第二分 区 A	桐 生	佐々木 裕	森 末廣	疋田 博之	坪井 良廣			大島 武司	吉野雅比古	
	桐 生 南	川堀 良治	鈴木 章弘	高村 利久	久保田 勇	岩崎 勤	中村 梅生	小幡 喜雄	長 暉	
	桐 生 西	中野幸三郎	石川 忠正	田崎 武夫	高森 勉	田村 欽男	金子 福松	阿左美 博		
	桐生中央	渋谷 敏明	周藤 寛	森下 正教	増田 浩三	樋口 一枝		黒澤 彰		
	桐生赤城	武井庄太郎	瀬谷 源	大川 一成		町田 裕一	尾花 靖雄	小島 三郎	岩田 真哉	
第二分 区 B	伊 勢 崎	前原 恒春	大澤 孝一	川端 護	藤生 政雄	小林 孝之	塚越 紀一	峯岸 則幸	蜂須賀芳勝	
	群 馬 境	石原 順一	田島 亀夫			小澤 昭次		川越壬英子		
	伊勢崎中央	小堀 重明	羽鳥 基宏	山崎 泰男	金子 克次		金田一英孝	小野 岳彦	小池 利男	
	伊勢崎南	保坂 恒明	中島 省三	井上 等	大木 博道	下田 進	松本 幸雄	石川 史郎	新井 誠	
	伊勢崎東	松村 史也	赤堀 賢二	三上 俊芳	小島 克也	栗原 成次	梅田 浩行	斎藤 勝美	岡田 元秀	
第三分 区	高 崎	羽鳥 修司	茂木 晴男	川手 義昭	富澤 謙吉	宮野 真一	船水 康宏	芝崎 勝治	富所 俊夫	
	高 崎 南	田島 五郎	長谷川芳幹	永崎 雅信	渡辺 良二	後藤 悦治		奥井 定夫		
	高 崎 北	稲川庫太郎	鈴木 洋二	島津 文弘	秋本 格摩	廣瀬 彪夫	吉田 信昭	大山 久尚	井田 三義	
	高 崎 東	井草 秀樹	高橋 永一	須藤 賢一	永井 乙彦	野口 茂	林 進	土屋 広之	山本 豊	
	高崎ソノニー	長壁 敏雄	君島 准逸	佐藤 忠	福田 泰久	近藤 護	横山 正男		浅見 博	
	高崎セントラル	三井田賢一	水上 勝之	柳澤 佳雄	橋爪 良真	石橋 克美		中森 隆利	関口 朋克	
第四分 区 A	太 田	西田 幸隆	吉田 雅司	野村 茂雄	栗原 博	加藤 俊雄	大塩 孝	常見 隆	竹沢 悦男	
	太 田 西	荒井 壮佳	江川 裕之	矢作 正夫	板橋與紀二		川田 美穂	青木 一佳	秋山 卓己	
	太 田 南	久保田文彦	佐藤 三男	田島 眞治	吉原 猛			長谷川 弘	岩井雄二郎	
	新 田	正木 留男	片山伊久郎	坂庭 滋忠					梶塚 喜作	
	太田中央	原島 俊夫	小暮 正人	中村 俊之	石井 一嘉			日座 勇	荒牧 功二	
第四分 区 B	館 林	原 初次	青山 守治	田部井孝一	滝野瀬博志	竹島 敏臣		宮内 敦夫	毛塚 宏	
	大 泉	川島 健一	井野 正夫	諏訪 輝男	新井 隆		久保田吉彦	黛 卓爾	橋本 剛	
	館 林 西	三浦 愛司	吉村 高志	布施 健彦	三田 正治		小巻 行雄	中繁 基		
	館 林 東	富田 佳典	佐藤 珠夫	阿部 豊子	青木 幸雄		三田 博行	蜂須 一克	今野 幸作	
	館林ミレニアム	近藤 候近	天笠 博	安楽岡 滋	茂木 浩			小磯 泰男	原 精一	
第五分 区	渋 川	町田 久	佐藤 秀樹	寺島 順一	埴田彦一郎	戸塚 富雄		福田 保英	太田謙次郎	
	沼 田	櫛淵 光彦	矢島 照久	西田 治司	山田龍之介	宮内 明彦	小菅 茂雄	馮 公成	割田 佑	
	草 津	後藤 文雄	佐藤 勇人		井出 光治			飯島 啓一	直井 宏司	
	みなかみ	須藤 温	中島 市郎			伝田 創司		角田 行雄		
	中 之 条	富田 敏夫	唐澤 好文	割田 祐治	佐藤 博美	樋田 政明	田村 義一	一場 章良		
	沼田中央	遠藤 享志	山田 晃	小林 照夫	竹井 賢	渡邊 常二	小林 龍志	山田 豊	中村 充明	
	渋川みどり	岸 権三郎	小見山健次	田辺 寛治	南雲 賢一	兵藤 和男		羽鳥 智充	田子 文明	
第六分 区	富 岡	佐俣 廣房	荻野 勝美	宮前 有光	矢野 英司	田口 基		北原 正昭	小間 俊明	
	藤 岡	今井 邦利	龍見 和彦	林 直男	石崎 勝宥	小暮 義明	小林長三郎	浅賀 方正	周藤 洋	
	安 中	田口 晴也	田村 光三		武井 宏				正田 弘一	
	藤 岡 北	江袋 朝夫	高橋 昭雄		春山 隆義			平井 政隆	一柳 一男	
	富岡中央	加納紀一郎	井川 銀次	勅使河原正巳	富岡 隆			佐藤 正宏	伊原喜久雄	
	碓氷安中	山崎 悟	室橋 信好	櫻井 幹男	中島 直樹			田島 隆	東谷フミエ	
	藤 岡 南	森平 文男	市村 信也		石田 房嗣	斉藤 信子		神子田 遙		
	富岡かぶら	須賀 守	山田 光男	高橋 敏男		斎藤 勝也		嶋田 佳幸		

2007~2008 地区協議会報告書 ●

第4分科会		第5分科会		第6分科会	第7分科会		
新世代奉仕	インターネット コーナーアウト	広 報	雑 誌	米山奨学	職業奉仕		
板垣 忍	山田 浩史		平出 昌男	山田 邦子	生方 璋		
白石 仁		清水 憲明		安達 一志	飯野 明男		
角田 有司		亀井 大久		町田 伸廣	飯塚 善昭		
手島 武雄		廣山 武雄		桑原 稔	山田 昇一		
栢野三喜造		峰岸 希一			小沼 俊彦		
横山 和男		富澤 伸行	小澤 和利	高嶺 寧規	福島 隆志		
須永 博之							
佐々木一郎		松枝 幹		佐久間弘次	飯島 健		
新木 明夫	坪井 良行	星野 幸男	船戸 義澄	藍原 博士	荻野 一雄		
毒島 一夫		成瀬 修		新井 康家	毒島 一夫	須永 登(第七)	
渡辺 幸男			石川 守人	堀込 猛	小林壯一郎		
		細井 瑞貴	小柴 勘治	栗原 俊夫	武井 秀明	牛久保哲男(第三)	相沢 英男(第五)
橋本 博之					小林 利明		
			竹原 正貴	千保木長治	北原 康男		
川端 哲雄		是澤 久正	鬼頭 雅彦	小杉 啓司	堀越 宏		
島田 賢一		小暮 哲夫		谷 彰良	石原 秀夫		
関口 俊介		金田 悦郎		塩川 祐次	糸井 丈之		
川口 修平		武藤 康敏	今井 宏一				
豊泉 洋一		荒瀬 宏	高野 昌巳	横山 祐次	関崎省一郎		
羽鳥 武久		佐相 正芳	松本 裕文	広田誠四郎	半田 由明		
手島 均		金子 秀隆		三村 浩司	大島 純子		
金井 功		小島 康幸	吉村 修二	富沢 勇	嶋方 徳郎		
	長島 章博	吉田 勝		天笠 勝美	竹内 正幸		
岡田 秀一		久保田 肇		豊泉 政治	斉藤 昌男		
深澤 賢治		東 弘		飯田 忠夫	下山 建二		
吉川 一之		近野 雅博		稲田 信昌	木村 岑生		
大谷 克己		関塚 尚仁		蛭田 義徳	武井 智明		
渡辺紳一郎		増田 秀雄	瀬山 欣春	根岸 誠一	小暮 達也	長柄 純(第二)	
星野 薫		宮下 善雄	福島 亨	川本 慶子	荻原喜美江		
館野 正夫		内田 年一		千代山和民	新井 武夫		
橋田 三造				堀越 一孝	布川 四郎		
渡辺 栄		尾花 正貴	中山 勉	関口 亮二	遠藤 幸男		
三橋新太郎	松井 雄三	炭谷 武	吉田 喜一	福田 朋英	小田嶋祝子		
永井 明	松野 正一	武田 寛		片山 晃一	塩浦 敬之	中村 俊生(第七)	
南 吉松						小藤 昭次	立川 正章
				竹淵 博行			
柳 信男		大脇 博	植村 仁	藤塚 勳	井田 孝一		
牧 謙良		島 正一		木村 幸雄	飯塚 裕行		
	佐々木 貢			藤巻 信春	湯井 重子	新井恒好・茂木龍次・鈴木孝幸	
塚本 仁		岩崎 敏夫	黒澤 欣一	堀口 清司	八幡 勳		
関根 俊夫		半田 岳		寺田 武夫	杉田 穎紀		
		今井清二郎		田島 正夫	松本 勳	矢島 守正	
小野 文瑛		阿部 幸子		生沼 英治	水上 旭岳		
		山田 利和	松本 初雄	山崎 邦男	柴山 美雪		

## 第 2840 地区

### 地区協議会開催実行委員会 構成



◎は副委員長担当

---

---

国際ロータリー第2840地区2007～2008年度

# 地区協議会報告書

実行委員会 委員長 浅川忠良

報告書作成委員会

事務局／沼田中央ロータリークラブ

〒378-0045

群馬県沼田市材木町 178-1 (ホテル ベラヴィータ内)

発行日／2007年8月

印刷所／(有)新生孔版

---

---



